

構造特記仕様

- 特記無き限り構造詳細は、下記によるものとする。本工事に関係なき項目は、適用しない。
- コンクリートの調査養生試験及び型枠の養生脱型については、日本建築学会の「JASS5」(2015年版)によるものとする。

1 使用材料

- 鉄筋 JIS-G3112 SD295 (規格品) — D10~D16
SD345 (規格品) — D19以上

- コンクリート 全てJIS規格品とする。

適用箇所	基礎・地中梁	上部躯体	床デッキ	捨コンクリート	土間コンクリート
種類	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
設計基準強度	27 N/mm ²	33.7 N/mm ²	21 N/mm ²	18 N/mm ²	18 N/mm ²
指定スランブ	18 cm	18 cm	18 cm	15 cm	15 cm

雑用コンクリート

種類	適用箇所	設計基準強度	指定スランブ
普通コンクリート	外構工事	18 N/mm ²	18 cm
普通コンクリート		N/mm ²	cm

- ・セメントは普通ポルトランドセメントとし、水セメント比は65%以下とする。
- ・細骨材の塩分含有量は、0.04%以下とする。
- ・粗骨材は川砂利又は砕石砂利とし、最大粒径は25mmとする。
- ・型枠の存置期間は、せき板は「公共建築工事標準仕様書 表6.8.2」によるかコンクリートの圧縮強度が5N/mm²に達した場合とする。
- ・支保工の存置期間は、「公共建築工事標準仕様書 表6.8.3」による。
- ・砕石には、コンクリートがらを使用しない。
- ・打込・締め固め方法・・・「公共建築工事標準仕様書 6章」による。
- ・打継ぎ部の処理方法・・・「公共建築工事標準仕様書 6章」による。
- ・養生方法・・・JASS5の8節に準じる
- ・コンクリート中の単位水量は、185kg/m³以下とする。

- 検査試験 コンクリート 7日、28日強度試験をコンクリートの打ち込み日打ち込み区ごと、かつ150m³または、その端数ごとに1回行う。
- 鉄筋圧接 各ロットで超音波探傷試験を30ヶ所行うか、引張試験を各径ごとに3本以上行う。

- コンクリートブロック JIS-A5406 C種 基本ブロック

2 基礎

- 形式、工法 場所打ちコンクリート杭 (アースドリル工法)
- 地耐力 (杭リストによる)

3 地業、土間

- 地業 ・基礎下端 捨てコンクリート厚 50 砕石厚 50
・地中梁下端 捨てコンクリート厚 50 砕石厚 50
・土間下端 捨てコンクリート厚 50 砕石厚 100
- 土間配筋 ・内部土間 土間コンクリート厚 150 D13-@200
・外部土間 土間コンクリート厚 150 D13-@200

配筋要領

- 本仕様書に記載の無い配筋は、「公共建築工事標準仕様書」(最新版)によるものとする。

1 一般事項

- 鉄筋記号

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
記号	●	×	●	○	○	○	○

- 鉄筋の折り曲げ標準

折り曲げ 角度	形状	折り曲げ内法寸法(D)			折り曲げ 角度	形状	折り曲げ内法寸法(D)
		S295, S345 D16以下	D19~D38	S390 D19~D38			
180°					135° 及び 90° (幅止め筋)		3d以上
135°							4d以上
90°							5d以上

- 鉄筋末端部のフック
下記の場合は、鉄筋末端部にフックを設ける。
・あばら筋、帯筋及び巾止め筋
・柱出隅部分の鉄筋(重ね継手の場合のみ)
・梁(地中梁を除く)の出隅部分の鉄筋(重ね継手の場合のみ)
・煙突の鉄筋
・その他「公共建築工事標準仕様書 5.3.2」による部分

- 鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

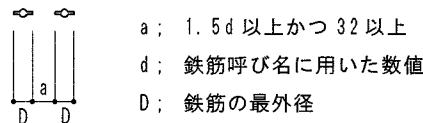
・かぶりを確保するためにスパーサー、バーサポートを適切に使用する。

構 造 部 分 の 種 類				かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり		30 (20)
		仕上げなし		40 (30)
	柱、梁、耐力壁	屋 内	仕上げあり	40 (30)
			仕上げなし	40 (30)
		屋 外	仕上げあり	40 (30)
			仕上げなし	50 (40)
	擁壁、耐圧スラブ			50 (40)
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁			* 50 (40) *
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			* 70 (60) *
	煙突等高熱を受ける部分			70 (60)

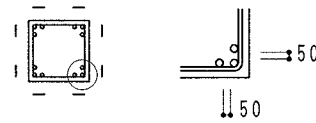
(注) ・() 内の数値は最小かぶり厚さを示す。

- ・*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合はこれに10加算する。
- ・「仕上げあり」とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
- ・スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
- ・杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
- ・柱・基礎梁の場合土に接する部分は10mmふかして上記かぶり厚さを確保しても良い。

- 鉄筋相互のあき



柱の主筋が二段階の時

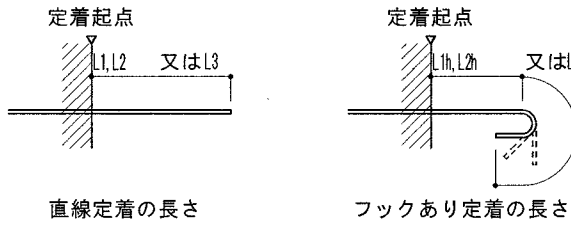


- 鉄筋の継手形式、定着長及び継手の長さ

- ・D19 以上の柱、梁の主筋は、ガス圧接とする。特殊な継手を用いる場合は監督職員の承諾を受けること。
- ・D16 以下は重ね継手とする。又、各部の補強筋は全て、重ね継手とする。
- ・鉄筋重ね継手L1=35d とあるところは全てL1=40d と読み替えるものとする。

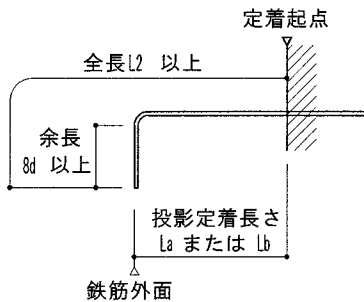
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	直線重ね継手の長さ (L1)	直線定着長さ		フックあり 重ね継手の長さ (Lh)	フックあり定着長さ	
			一般 (L2)	下端筋(L3) 小梁 床スラブ 屋根スラブ		一般 (L2h)	下端筋(L3h) 小梁
S295	18	45d 以上	40d 以上		35d 以上	30d 以上	
	21	40d 以上	35d 以上		30d 以上	25d 以上	
	24.7	35d 以上	30d 以上		25d 以上	20d 以上	
	30~36	30d 以上	30d 以上		25d 以上	20d 以上	
S345	18	50d 以上	40d 以上	20d 以上	35d 以上	30d 以上	10d 以上
	21	45d 以上	35d 以上	10d 以上	30d 以上	25d 以上	
	24.7	40d 以上	35d 以上	かつ 15 cm 以上	30d 以上	25d 以上	
	30~36	35d 以上	30d 以上		25d 以上	20d 以上	
S390	21	50d 以上	40d 以上		35d 以上	30d 以上	
	24.7	45d 以上	40d 以上		35d 以上	30d 以上	
	30~36	40d 以上	35d 以上		30d 以上	25d 以上	

- ・直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の公称径とする。
- ・フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分ℓを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。



- ・仕口内に90°折曲げ定着する鉄筋の定着長さが、上表のフック付き鉄筋の定着長さ Lh を満足しない場合の定着の方法は、下記の(1)~(2)による。

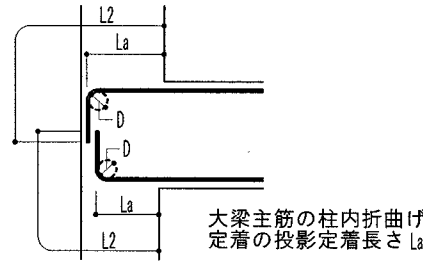
- (1) 仕口内に90°折曲げ定着する異形鉄筋の定着長さが、下図に示すように、定着起点(仕口面)から鉄筋先端までの全長を直線定着の長さ L2 以上、かつ、余長を 8ℓ 以上とし、定着起点から鉄筋外面までの投影定着長さ la または lb を指定する。



- (2) 投影定着長さは、大梁(基礎梁や片持梁を含む)の主筋の柱内定着については(a)の la の数値以上、小梁やスラブ(片持形式を除く)の上端筋の梁内定着については、(b)の lb の数値以上とする。なお、片持形式の小梁やスラブの上端筋は、(a)の la の数値以上とする。

- (a) 大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ la

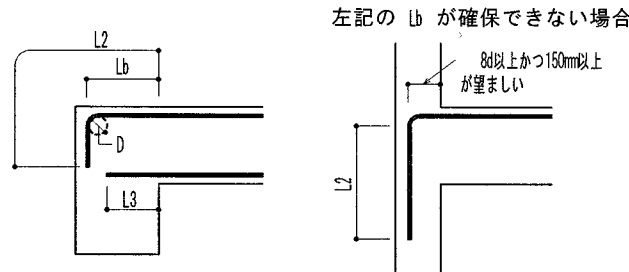
コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	S295	S345	S390
18	20d	20d	—
21	15d	20d	20d
24.7	15d	20d	20d
30~36	15d	15d	20d



梁主筋を柱へ定着する場合、la の数値は原則として柱せいの 3/4 倍以上とする。

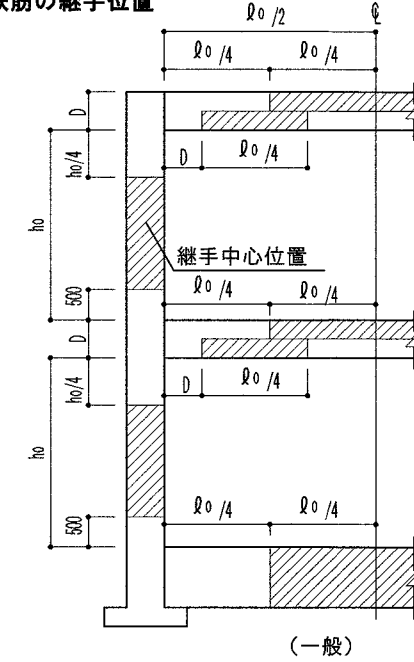
- (b) 小梁やスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ lb (片持の小梁・スラブを除く)

コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	S295	S345	S390
18	15d	20d	—
21	15d	20d	20d
24.7	15d	15d	20d
30~36	15d	15d	15d

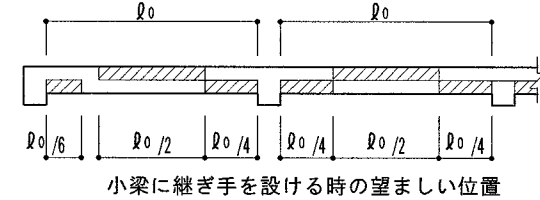


小梁やスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ lb

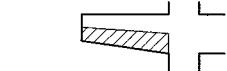
- 鉄筋の継手位置



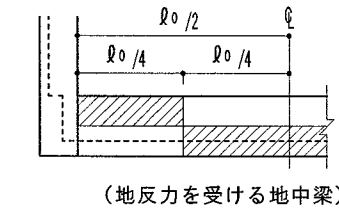
柱及び大梁に継ぎ手を設ける時の望ましい位置



小梁に継ぎ手を設ける時の望ましい位置



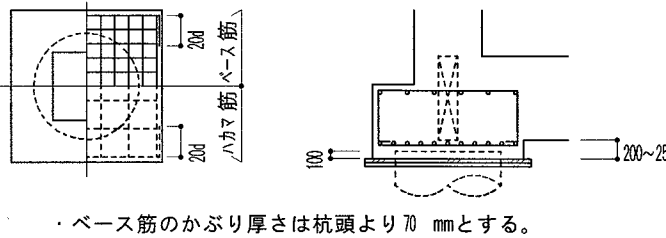
片持梁に継ぎ手を設ける時の望ましい位置



(地反力を受ける地中梁)

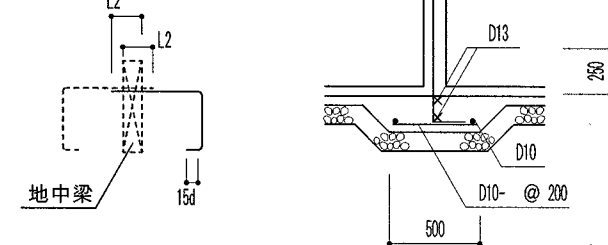
2 基礎配筋

- ビヤ基礎



・ベース筋のかぶり厚さは杭頭より 70 mm とする。

- 壁が直接土間に乗る時



- 建築設備の構造強度(建築基準法施行令第129条の2の3関連)

- ・特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- ・床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- ・建築設備、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
- ・屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。
- ・煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コケトブロ造または無筋コケト造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とする。
- ・煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコケト造のかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コケト造又は厚さが25cm以上の無筋コケト造、れんが造、石造若しくはコケトブの造とすること。

- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(給湯設備を除く。)は、
・風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
・建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
・管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設けたものを除き、90cm以下とする。
・管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震、その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
・法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
- 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
・潤水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
*「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長

艸 建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

1-1-15 SHINYASIKI
KOSHI CITY 700-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

構造特記仕様(1)

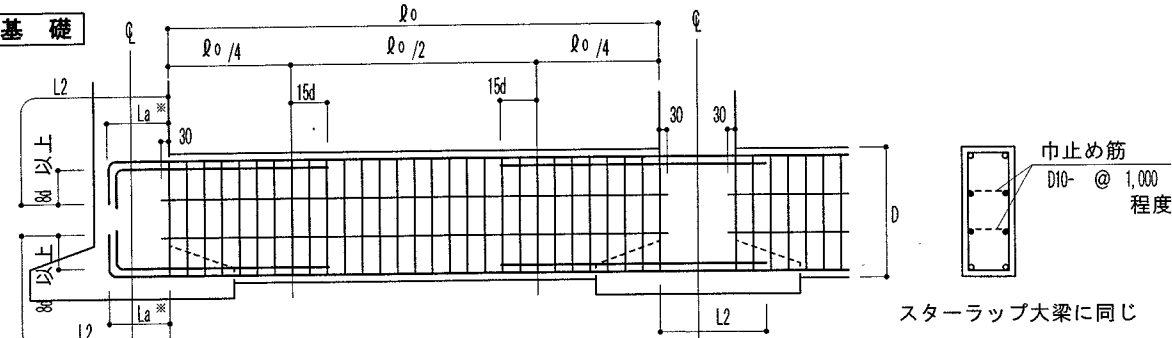
SCALE 1/1
(A3は70%出力)

構造
01

3 基礎梁配筋

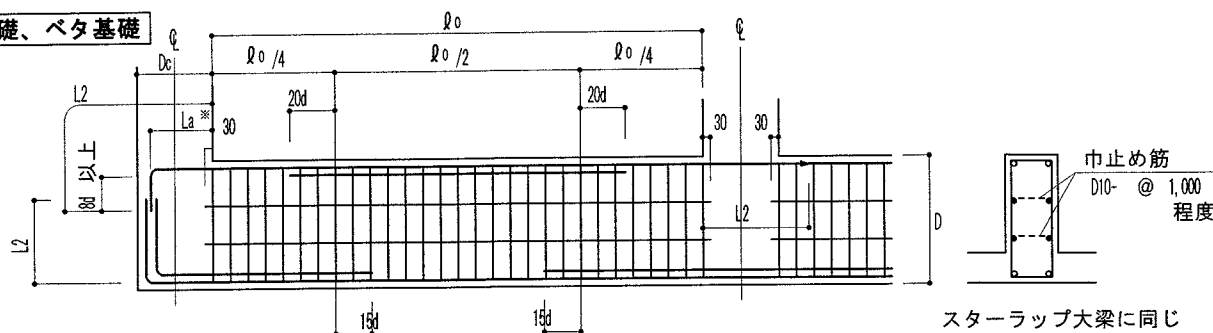
○ 基礎梁

独立基礎



スターラップ大梁と同じ

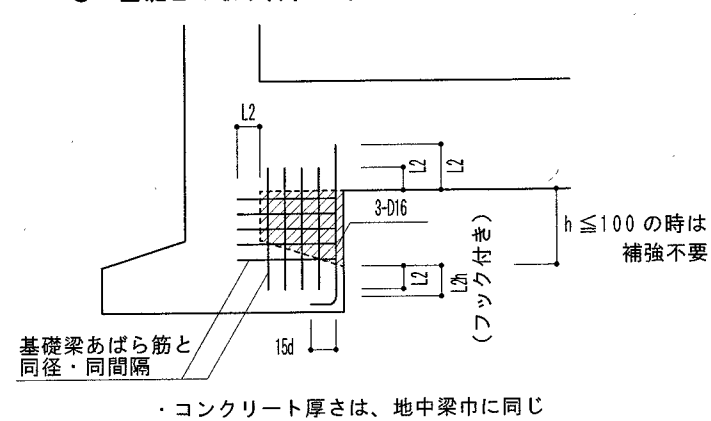
布基礎、ベタ基礎



スターラップ大梁と同じ

※ La の数値は、原則として柱せいの 3/4 倍以上とする。

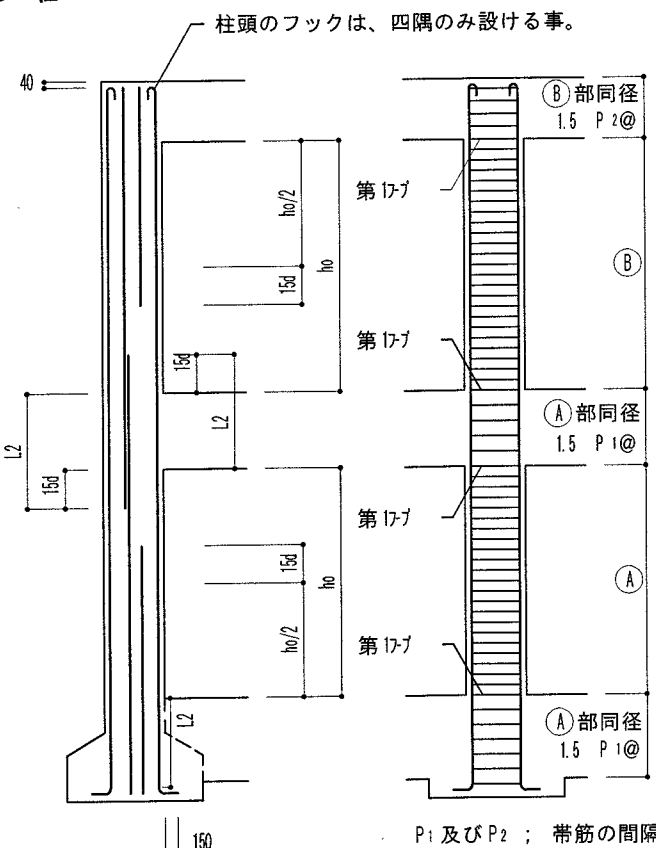
○ 基礎とのかみ合わせ部補強



・コンクリート厚さは、地中梁巾と同じ

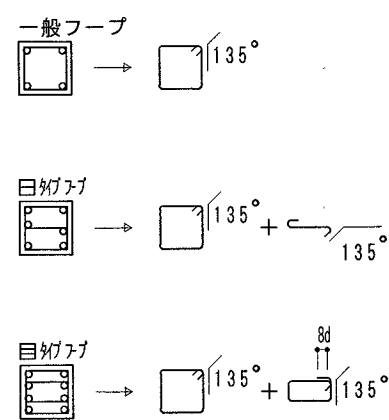
4 柱配筋

○ 柱



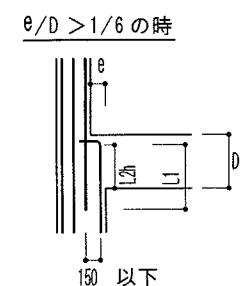
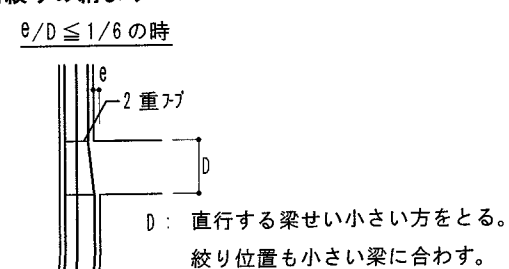
○ HOOP

- ・ダイヤフープ筋は無いものとする。
- ・フープ加工



・フックは左右交互に配置する。

○ 柱筋絞りの納まり

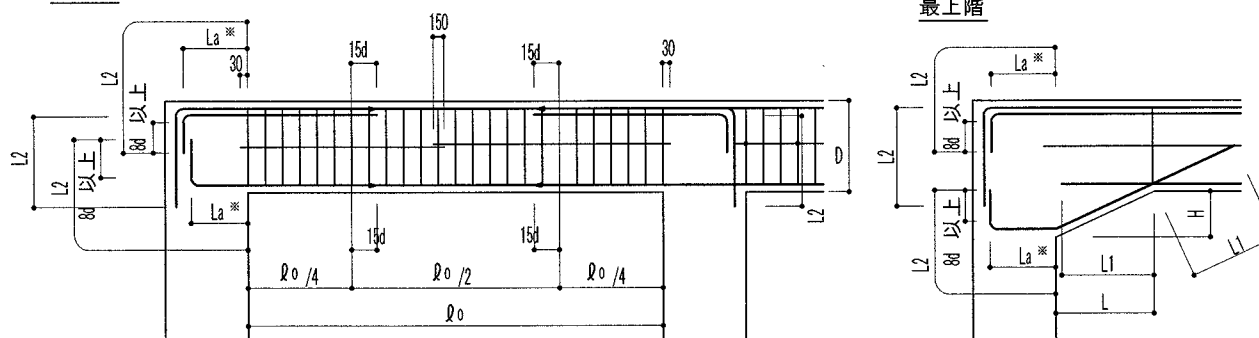


※eの最大値は、原則として 150 mm とする。

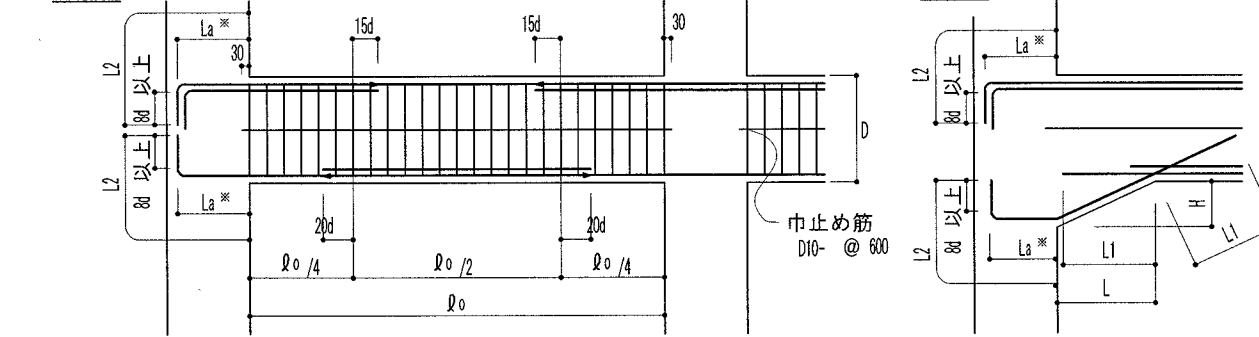
5 梁配筋

○ 大梁

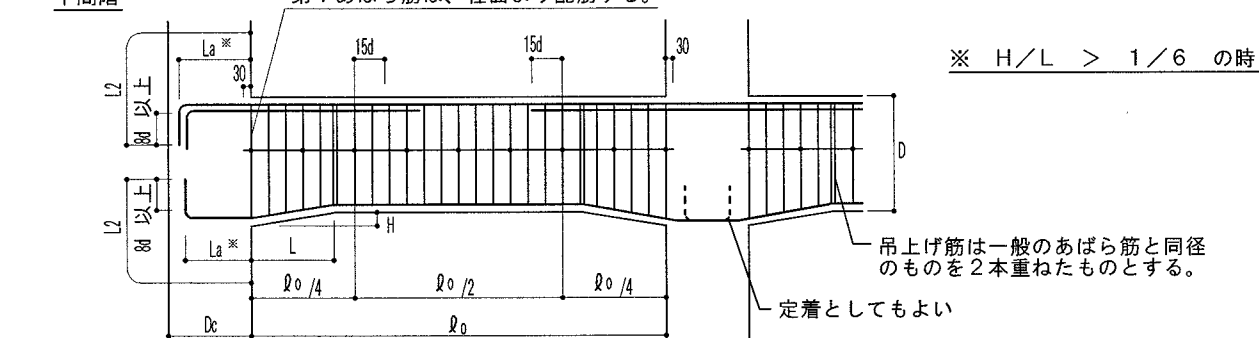
最上階



中間階



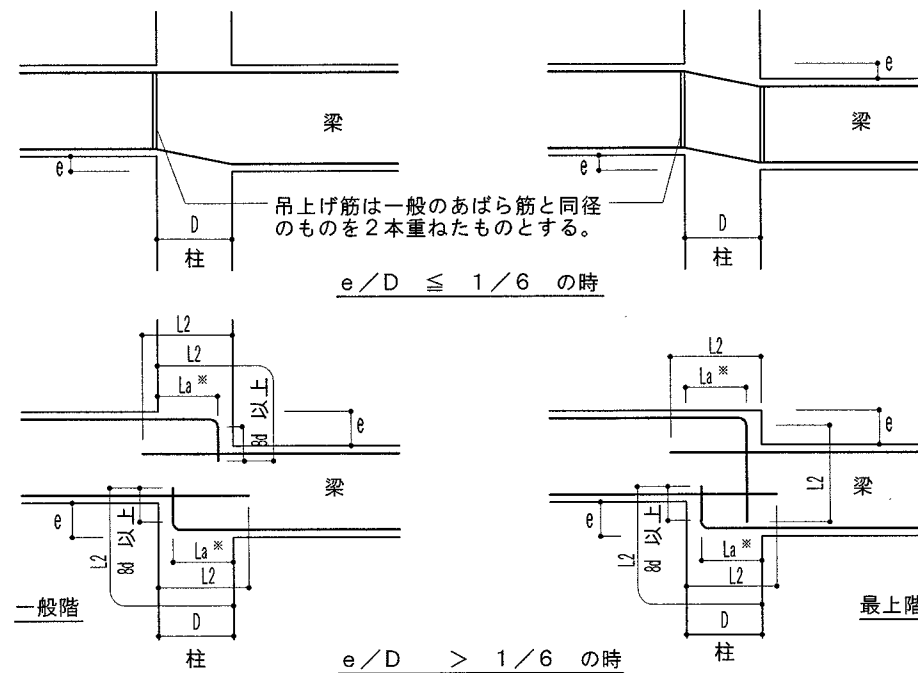
中間階



※ H/L ≤ 1/6 の時

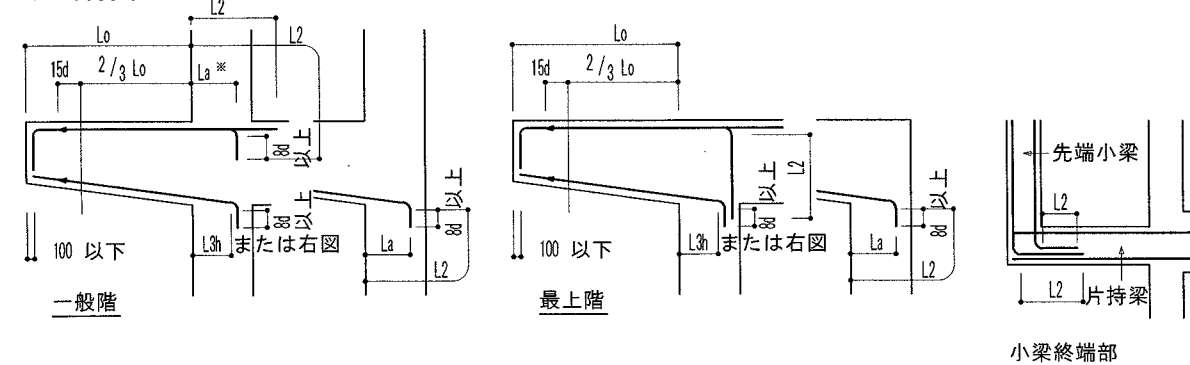
※ La の数値は、原則として柱せいの 3/4 倍以上とする。

○ 段違い梁



※ La の数値は、原則として柱せいの 3/4 倍以上とする。

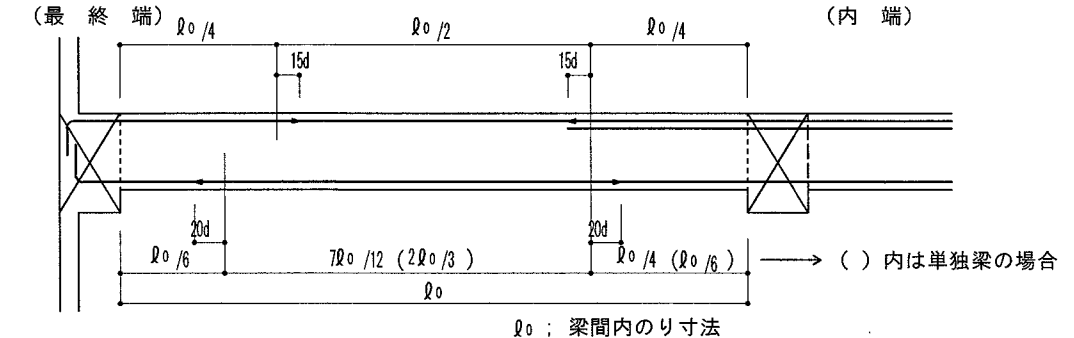
○ 片持梁



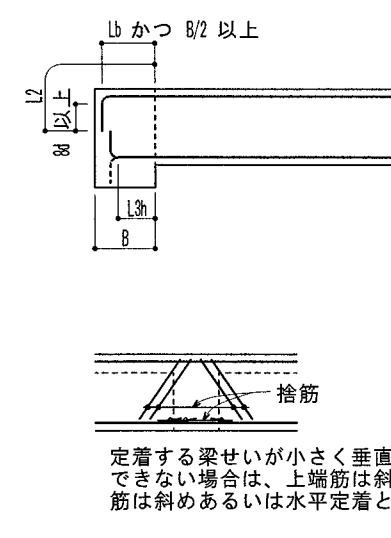
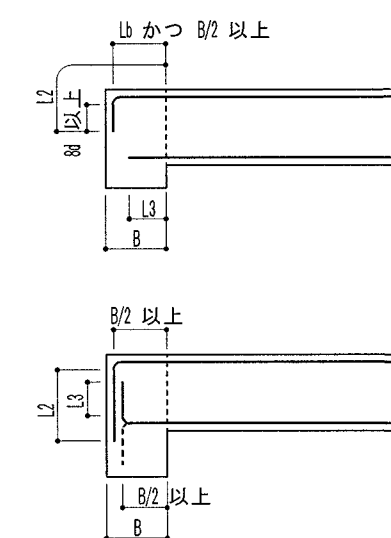
- ・上端筋先端は梁せいで折曲げる。
- ・※ La の数値は、原則として柱せいの 3/4 倍以上とする。

○ 小梁

(単独梁両端)
(最終端)



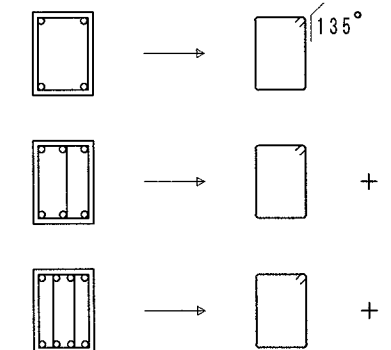
Do: 梁間内の寸法



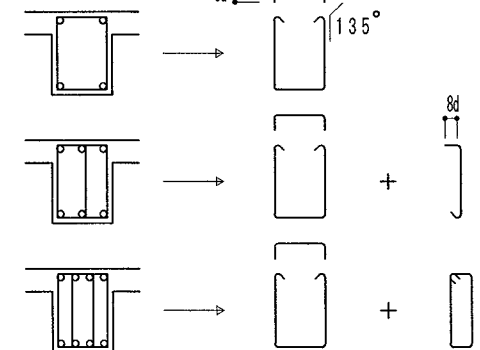
定着する梁せいが小さく垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜めあるいは水平定着としてよい。

○ スターラップ

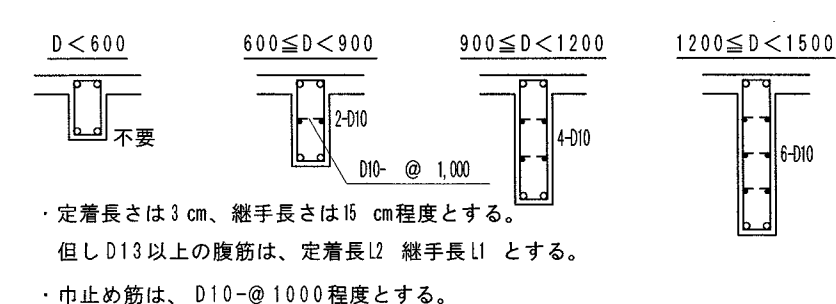
一般の時



両側スラブ付きの時(使用可)



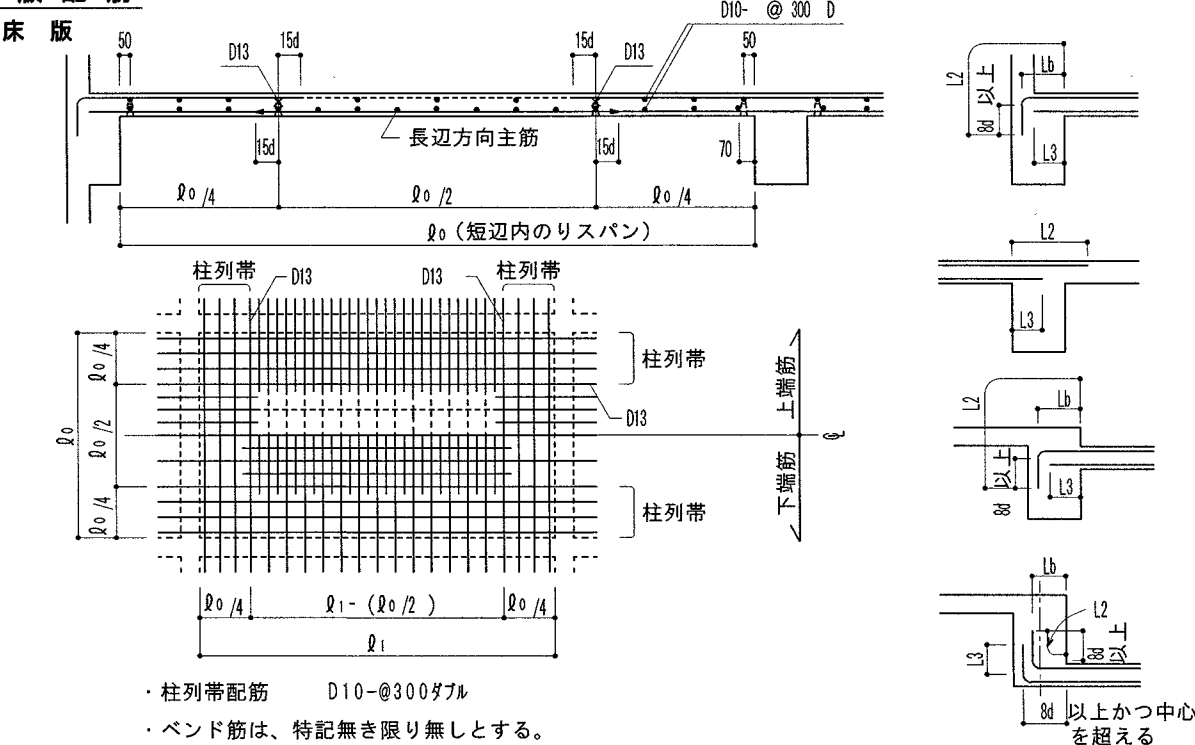
○ 腹筋



- ・定着長さは 3 cm、継手長さは 15 cm 程度とする。
- ・但し D13 以上の腹筋は、定着長 L2 継手長 L1 とする。
- ・巾止め筋は、D10 @ 1000 程度とする。

6 床版配筋

○ 床版



- ・柱列帯配筋 D10 @ 300 ダブル
- ・バンド筋は、特記無き限り無しとする。



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	田中	松本

艸建築工房
SUU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第 329877 号 横島康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

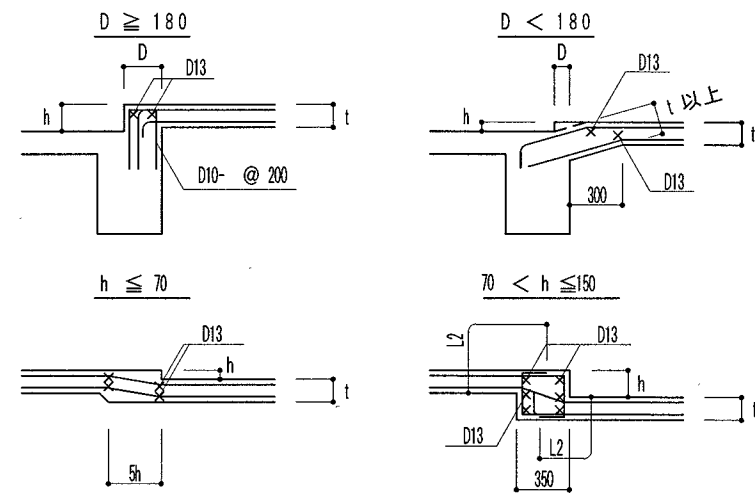
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

構造特記仕様 (2)

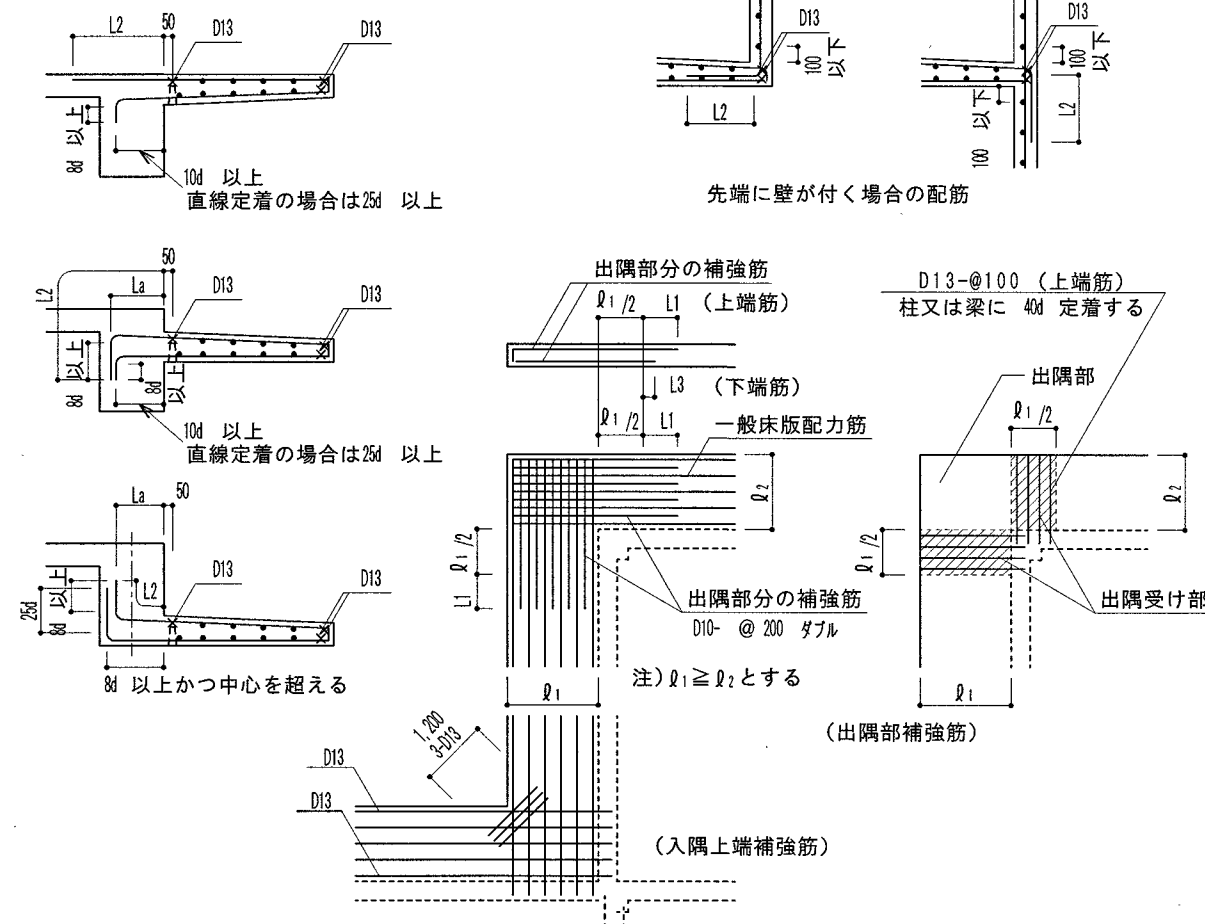
SCALE 1/1
1
(A3は70%出力)
02

構造
02

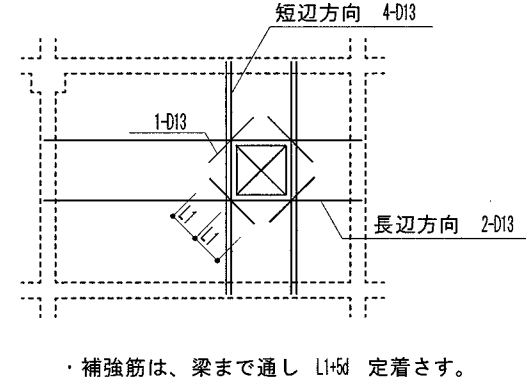
○ 高低差のある床配筋



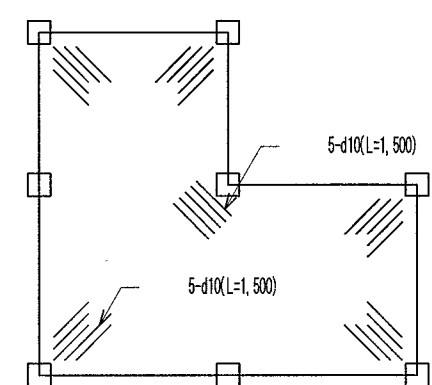
○ 片持スラブ



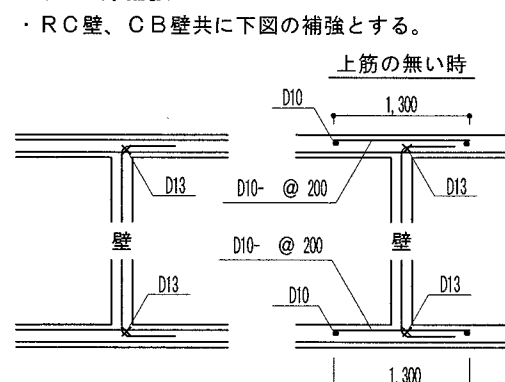
○ 開口補強



○ 屋根スラブの出隅及び入隅部



○ 壁上下部補強

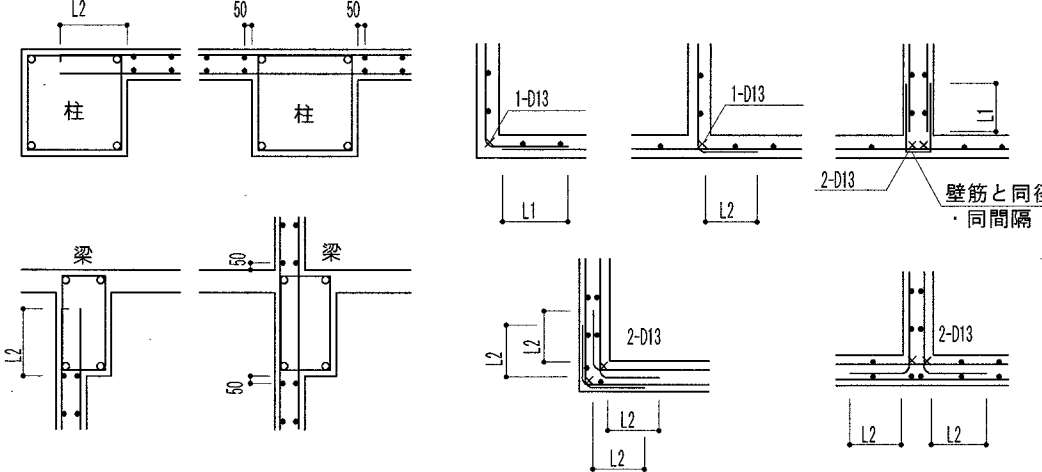


7 壁配筋

○ 壁配筋表

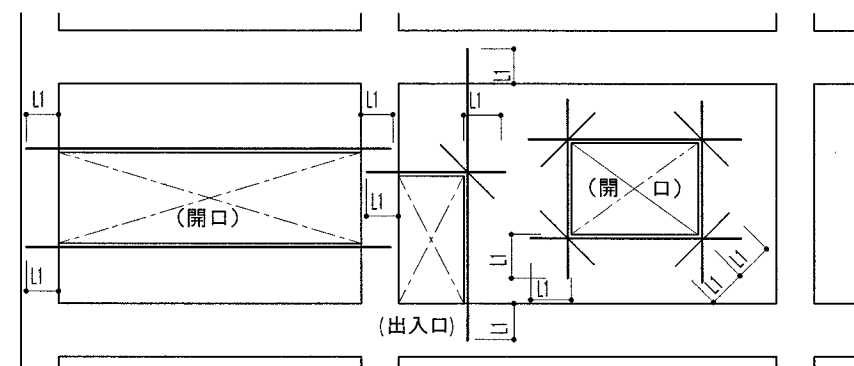
- 壁配筋は、壁配筋リストによる。
- 巾止め筋は、D10-@1000ドリ

○ 壁筋定着



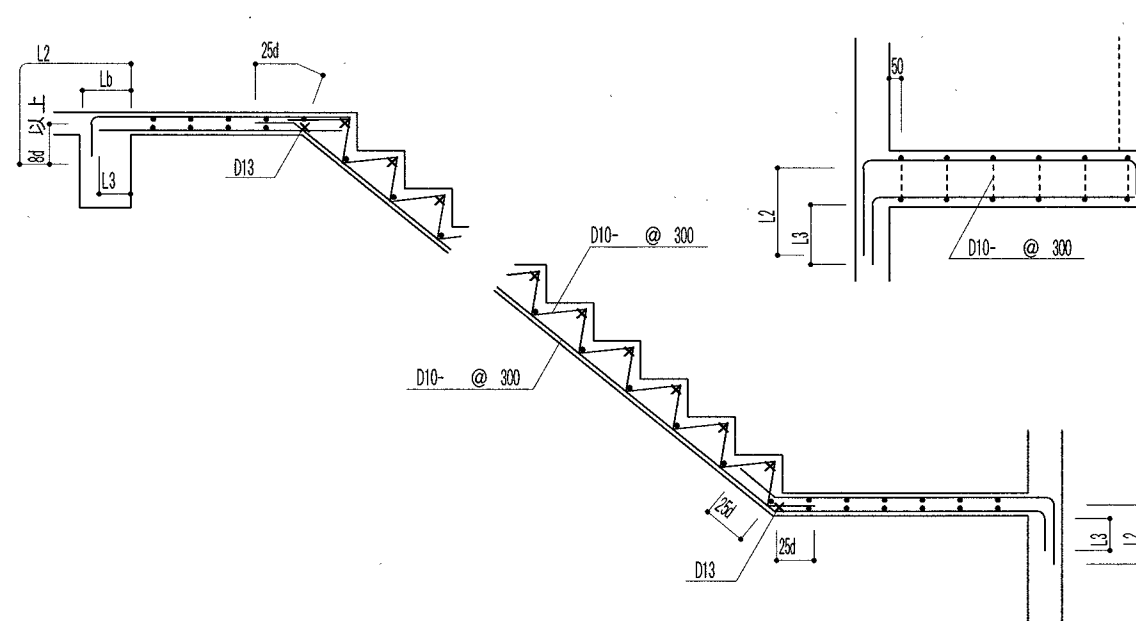
○ 開口補強筋定着

- 開口面積が、0.5㎡以下の開口補強筋は全て2-D13とする。
- 出入口開口の縦補強筋は、上下の梁に定着する。

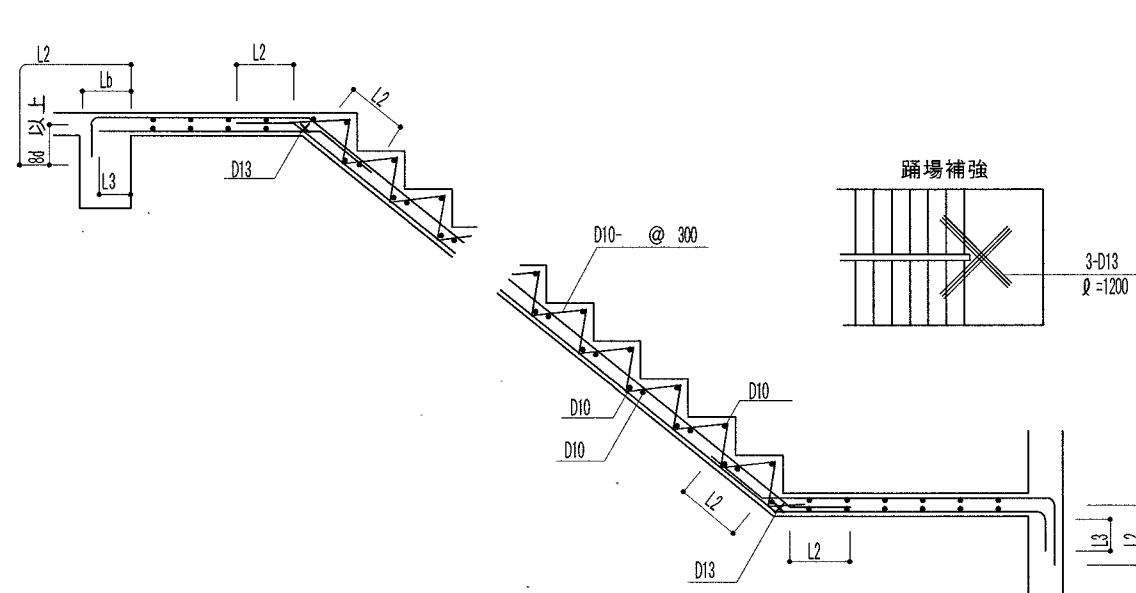


8 階段配筋

○ 片持階段

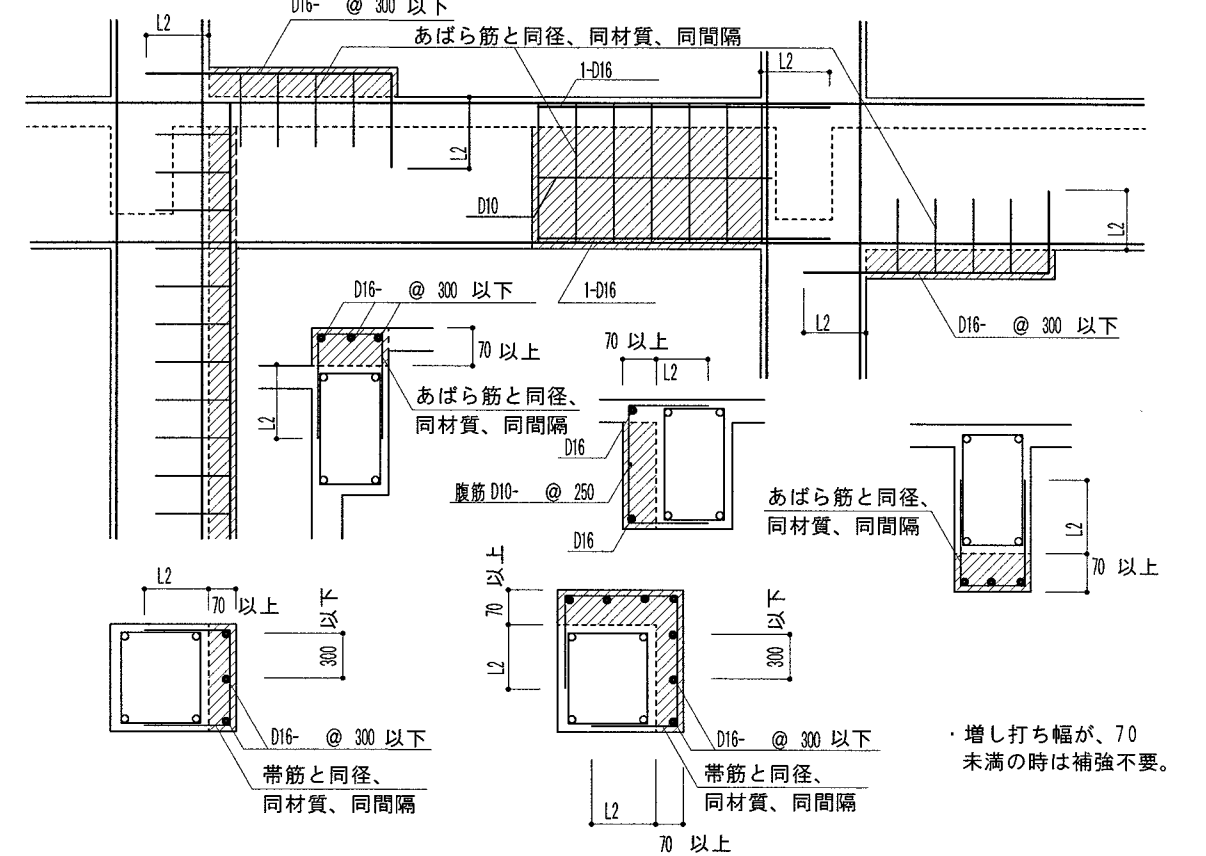


○ スラブ階段

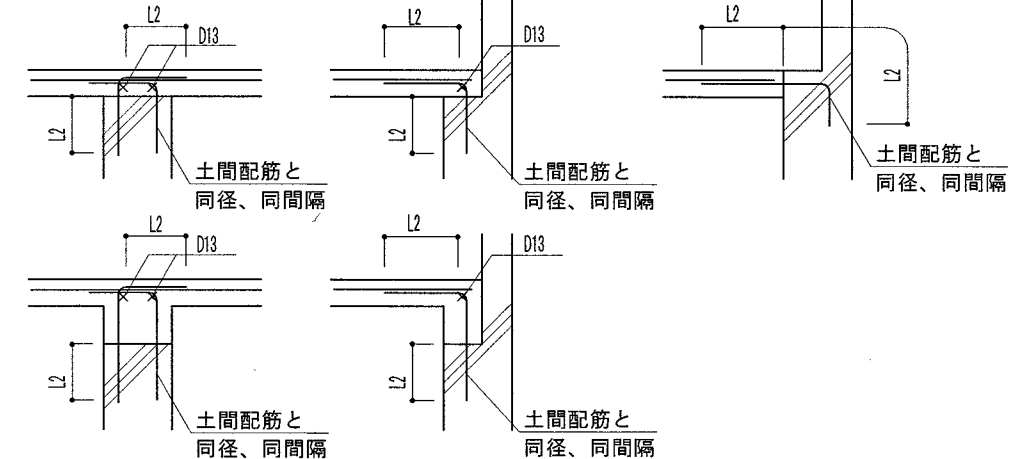


9 雑配筋

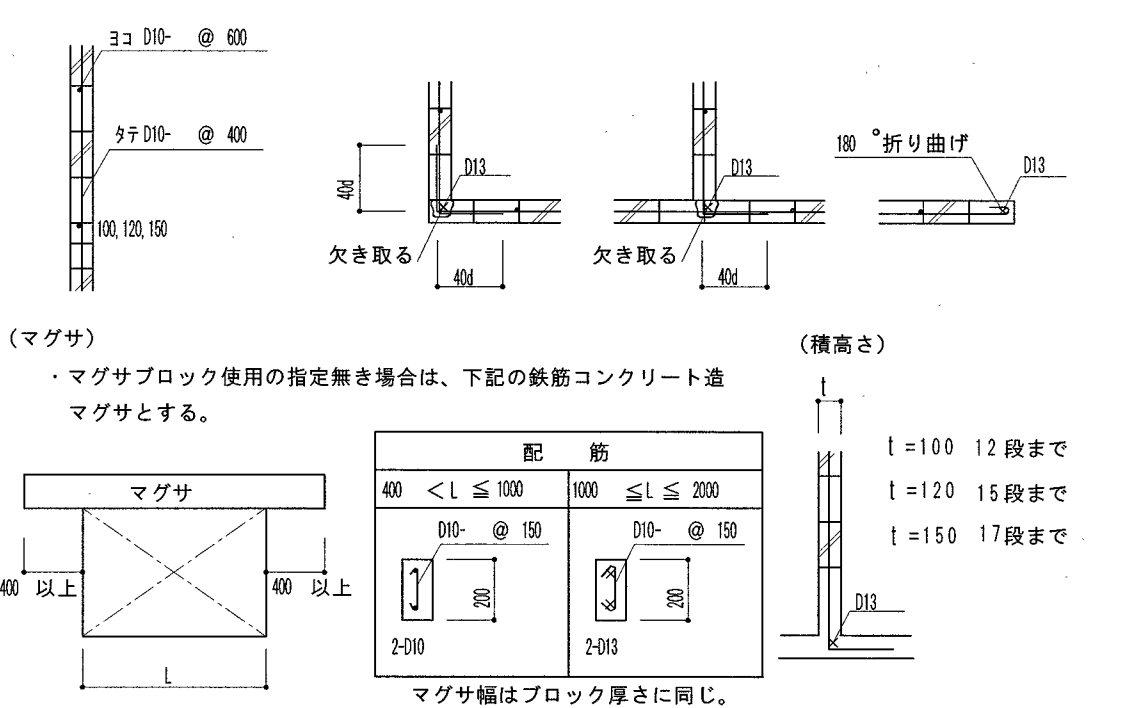
○ 柱梁増し打ち補強



○ 土間コンクリート



○ ブロック壁配筋



○ 梁貫通孔補強

- 梁貫通孔補強は、既製補強金物（ウェブレン、リンプレン、SGリング等）とする。
- 在来工法による場合は、「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（最新版）による。



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 草一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山田	松本

岬建築工房
SHIYASIKI
KOGI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 089-824-0177
FAX 089-824-0216
一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

構造特記仕様 (3)

SCALE 1/100
03
(A3は70%出力)

鉄骨特記仕様

○ 特記無き限り構造詳細は、下記によるものとする。本工事に関係なき項目は、適用しない。

1 鉄骨業者

○ 大臣認定「R」グレード以上の業者。

2 使用材料

○ 鋼材	主架構材	柱	——	B3235	通しダイアフラム	——	SM490C
		大梁	——	SM400B	内ダイアフラム	——	SM400B
		小梁	——	SS400	柱ベースプレート	——	SM400B
		間柱	——				
	母屋、胴縁		——				
	デッキプレート		——	Q199-50-12	一般鋼板	——	SS400

- 高力ボルト トルシア形高力ボルト 第2種 S10T [JIS形高力ボルト (F10可も可)]
○ 中ボルト JIS B1180-1181 中3級
○ アンカーボルト アンカーボルト 柱 — ABR400 ダブルナット締めとする。
○ ベースモルタル 高強度無収縮性モルタル

3 溶接工作一般

- 工作標準、溶接記号及び開先等は、右図に示す。
○ 溶接は原則として、工場溶接とする。現場溶接の生じる場合は「現場溶接要領書」を提出し、監督員の承諾を受ける事。
○ 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
○ 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

4 継手部一般

- 柱、梁材の継手は高力ボルト摩擦接合とする。
○ 継手位置における鋼材間のクリアランスは最大 10 mmとする。
○ 高力ボルト及び中ボルトのピッチ等は下記による。

ボルト 軸径		M12	M16	M20	M22
ボルト用孔径		14.0	18.0	22.0	24.0
ボルトピッチ		50	60	60	60
最小 縁端距離	はしあき	30	40	40	40
	へりあき	20	22	26	28

○ 継手接合部摩擦面は、浮錆、黒皮、塗装等の摩擦力を低減させるものは完全に除去する事。

5 防錆塗料

- 溶融亜鉛メッキドブ漬ケとする。継手HTB部は、リン酸亜鉛皮膜処理をする。
○ 継手部、現場溶接部（コンクリートに接する部分）を除き、工場一回現場一回塗り、現場補修とする。
○ 鉄面の素地ごしらは「建築工事共通仕様書」（最新版）による。

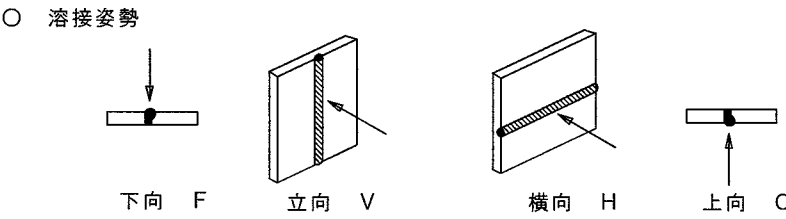
6 検査試験

- 現寸検査 原則として行う。CADにて代行することも可。
○ 開先組立検査 立会い検査を行う。写真報告必要。
○ 溶接試験 第3者による超音波探傷試験を、全数の20%以上について行う事。
平均出検品質限界（AOQL）は4%とする。
○ ボルト締め付け試験 F10T高力ボルトを使用のとき行う。

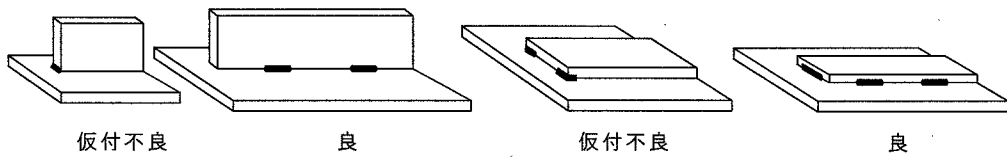
7 溶接接合

- 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適應するJIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする

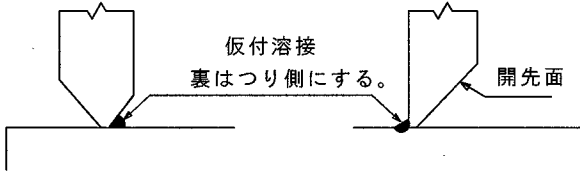
- 溶接機器
(イ) 交流アーク溶接機 300A~500A
(ロ) アークエアークラウジグ機（直流）
(ハ) サブマージアーク溶接機1式
(ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ヘ) 溶接棒乾燥器
- 溶接方法
アーク手溶接 (MC)
ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接 (NGC)
アークエアークラウジグ (AAG)



- 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
(イ) 仮付位置
組立て溶接は、溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

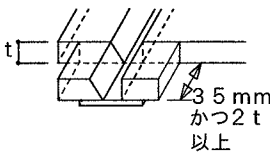


- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する

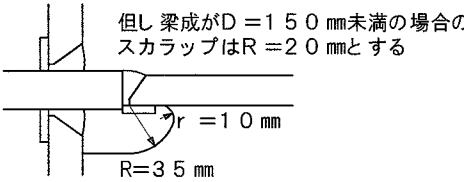


○ 溶接施工

- (イ) エンドタブ
I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
III) エンドタブの長さは、MC: 35mm以上
NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る



- (ロ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とする
(ハ) スカラップ
改良型スカラップとする
(ニ) 裏はつり
標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
(ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう

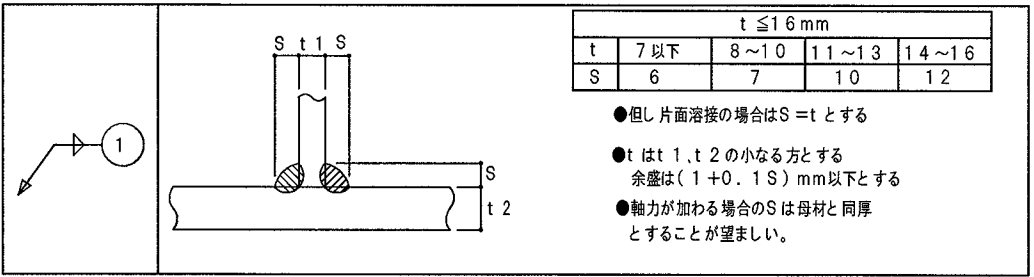


- 隅肉溶接は原則として、回し溶接を行う。
○ パネルゾーン部がB3235以上の材料を使うときに、内ダイアフラムに取りつく大梁端の突き合せ溶接は、○○ 半自動溶接で行うこと。

溶接標準図 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長

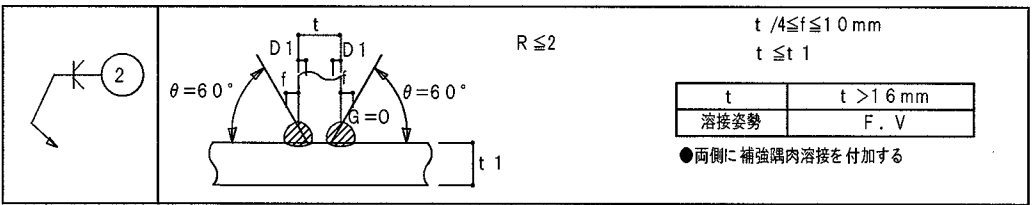
(単位mm)

(1) 隅肉溶接



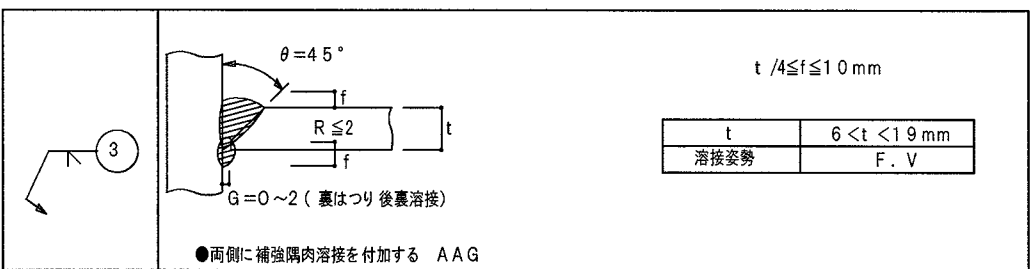
- 但し片面溶接の場合はS=tとする
●tはt1, t2の小なる方とする
●余盛は(1+0.1S)mm以下とする
●軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

(2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意)

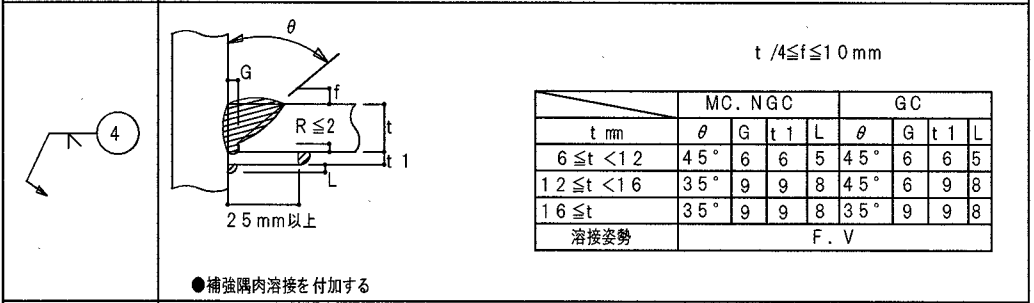


- 両側に補強隅肉溶接を付加する

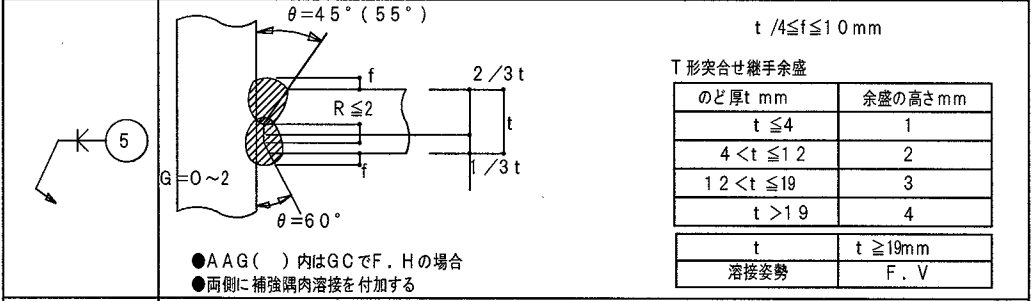
(3) 完全溶込み溶接 (平継手, T形継手)



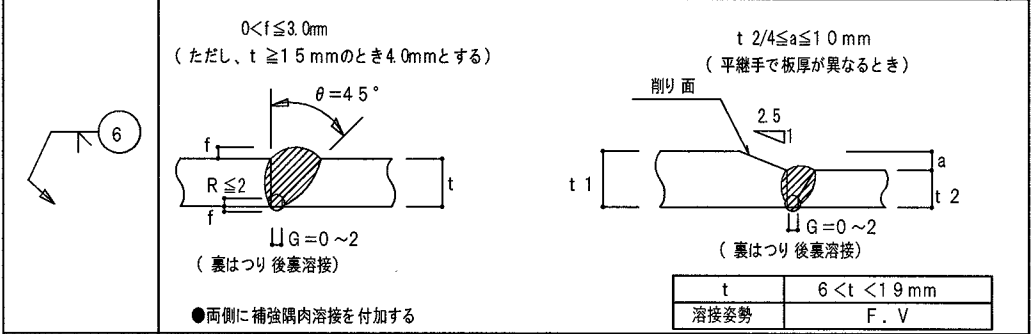
- 両側に補強隅肉溶接を付加する AAG



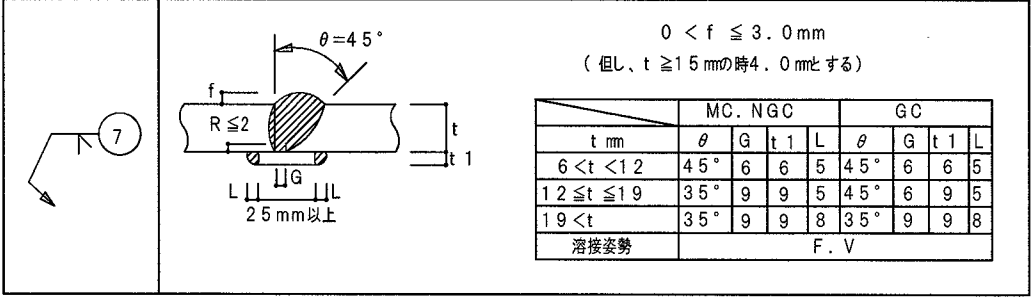
- 補強隅肉溶接を付加する



- AAG()内はGCでF、Hの場合
●両側に補強隅肉溶接を付加する

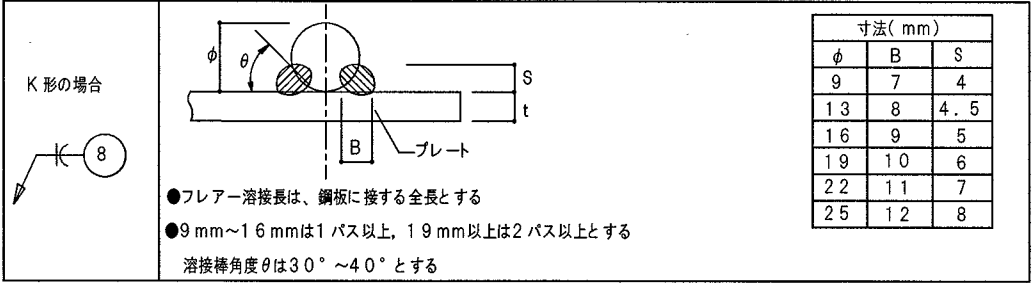


- 両側に補強隅肉溶接を付加する



- 両側に補強隅肉溶接を付加する

(4) フレアー溶接



- フレアー溶接は、鋼板に接する全長とする
●9mm~16mmは1パス以上、19mm以上は2パス以上とする
溶接棒角度θは30°~40°とする



一級建築士 大臣登録 第354762号
構造設計一級建築士 交付番号 10211
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	松本	松本

建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 089-824-0177
FAX 089-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

構造特記仕様(4)

SCALE 1/1
構造 04
(A3は70%出力)

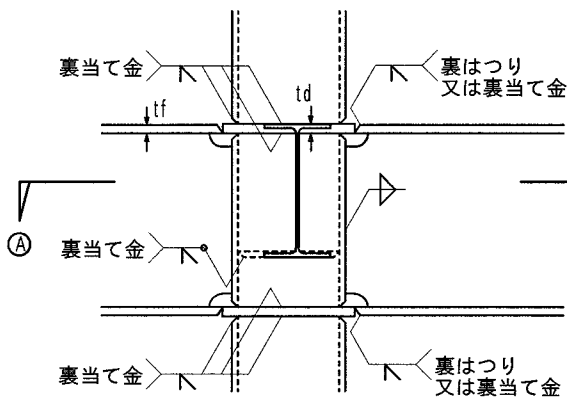
8 柱 梁 接 合 部

角 形 鋼 管 柱

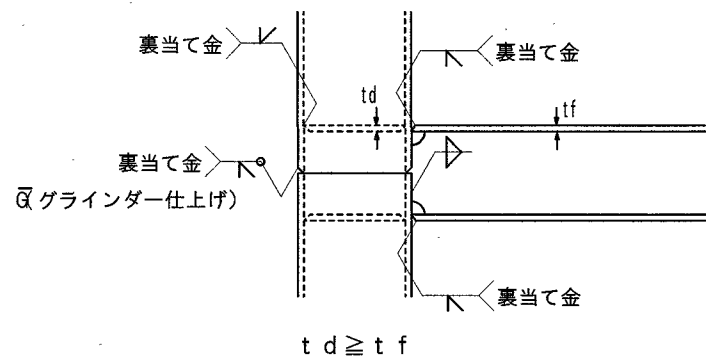
「2018年版 冷間成形角型鋼管設計・施工マニュアル」による。

○ 一般部

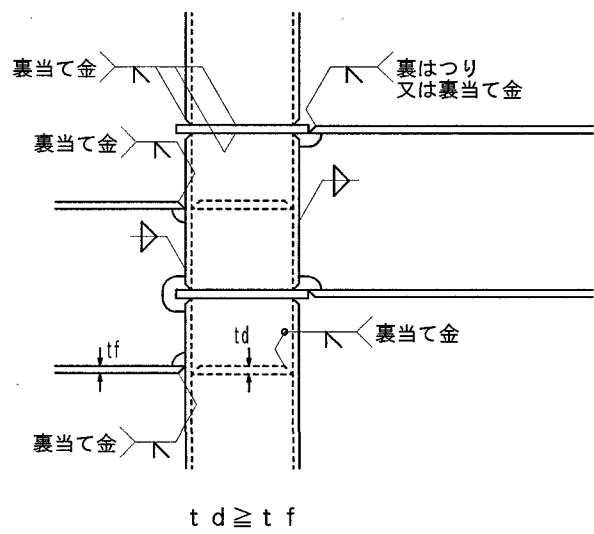
通しダイヤフラム形式



内ダイヤフラム形式

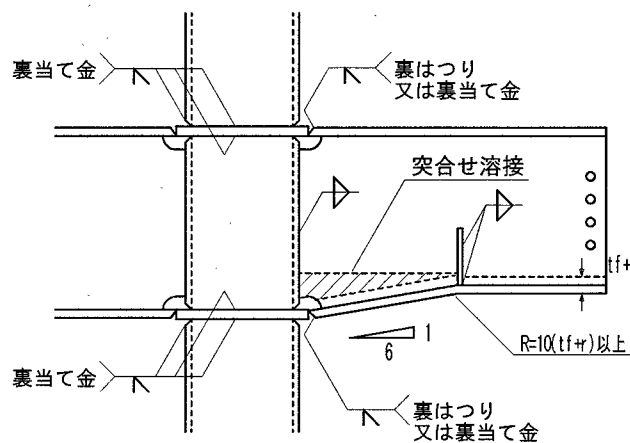


○ 左右の梁のレベルが異なる場合

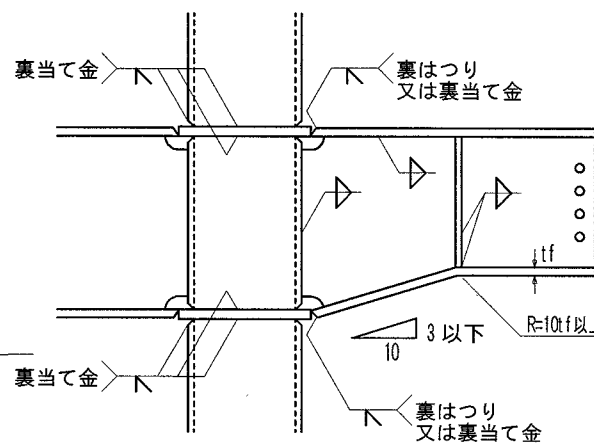


○ 梁ハンチ付の場合

H鋼加工の場合



P.L加工の場合



○ 上下柱サイズの異なる場合

「2018年版 冷間成形角型鋼管設計・施工マニュアル」による場合

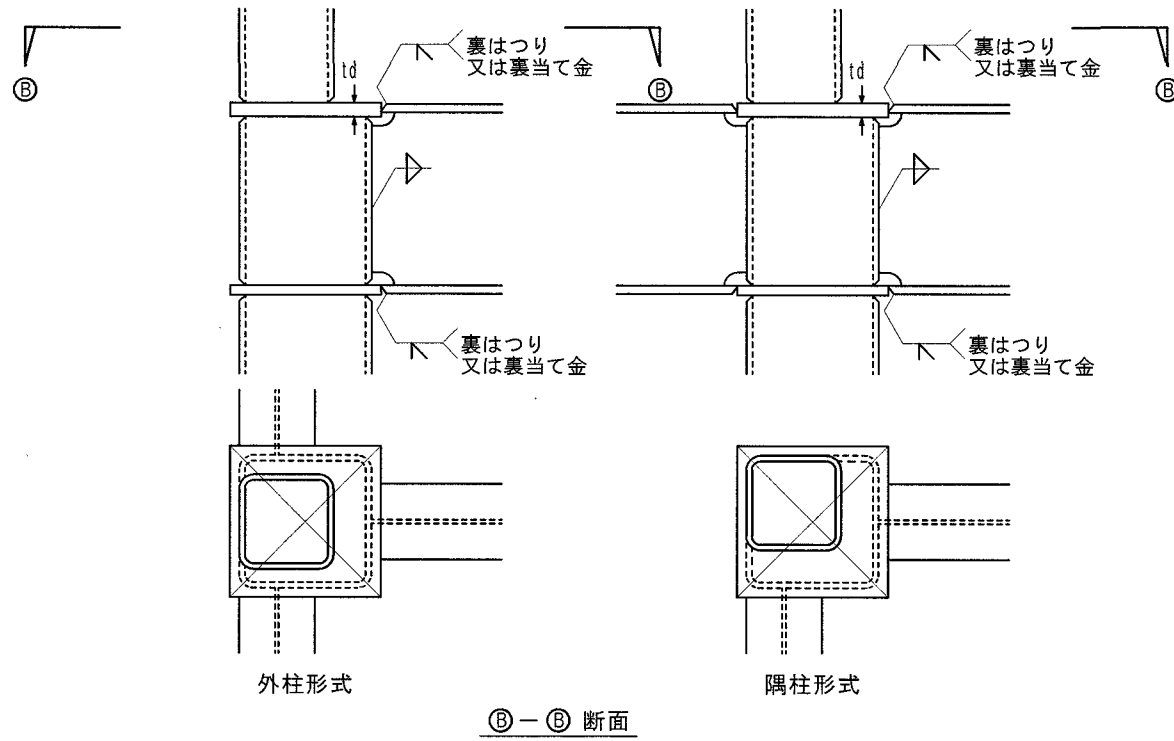
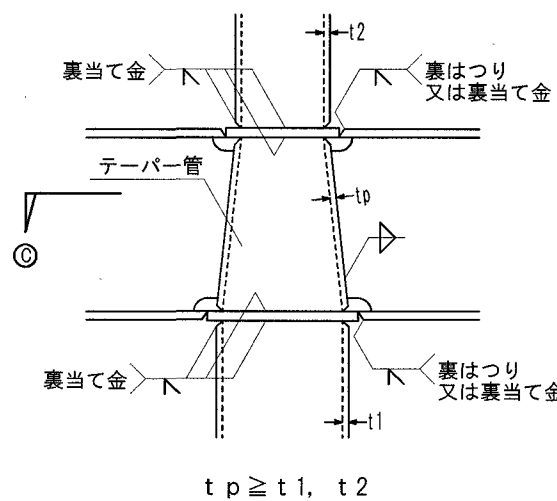


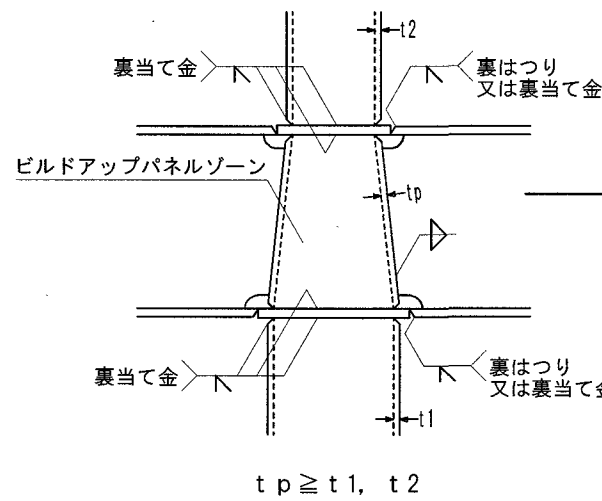
表3.6.1 通しダイヤフラムの必要厚さ

採用	上階柱	下階柱	外柱形式 t d (mm)	隅柱形式 t d (mm)
	□ - 150 × 150 × 6	□ - 200 × 200 × 6	19	22
	□ - 150 × 150 × 9	□ - 200 × 200 × 9	22	25
	□ - 150 × 150 × 12	□ - 200 × 200 × 12	22	28
	□ - 200 × 200 × 6	□ - 250 × 250 × 6	22	28
	□ - 200 × 200 × 8	□ - 250 × 250 × 8	22	28
	□ - 200 × 200 × 9	□ - 250 × 250 × 9	25	32
	□ - 200 × 200 × 12	□ - 250 × 250 × 12	25	32
	□ - 250 × 250 × 6	□ - 300 × 300 × 6	22	28
	□ - 250 × 250 × 8	□ - 300 × 300 × 8	25	32
	□ - 250 × 250 × 9	□ - 300 × 300 × 9	25	36
	□ - 250 × 250 × 12	□ - 300 × 300 × 12	28	36
	□ - 250 × 250 × 14	□ - 300 × 300 × 14	28	40
	□ - 250 × 250 × 16	□ - 300 × 300 × 16	28	40
	□ - 300 × 300 × 6	□ - 350 × 350 × 6	22	32
	□ - 300 × 300 × 8	□ - 350 × 350 × 9	25	32
	□ - 300 × 300 × 9	□ - 350 × 350 × 9	25	36
	□ - 300 × 300 × 12	□ - 350 × 350 × 12	28	36
	□ - 300 × 300 × 14	□ - 350 × 350 × 14	32	40
	□ - 300 × 300 × 16	□ - 350 × 350 × 16	32	45
	□ - 300 × 300 × 19	□ - 350 × 350 × 19	32	45

パネルゾーンテーパー管

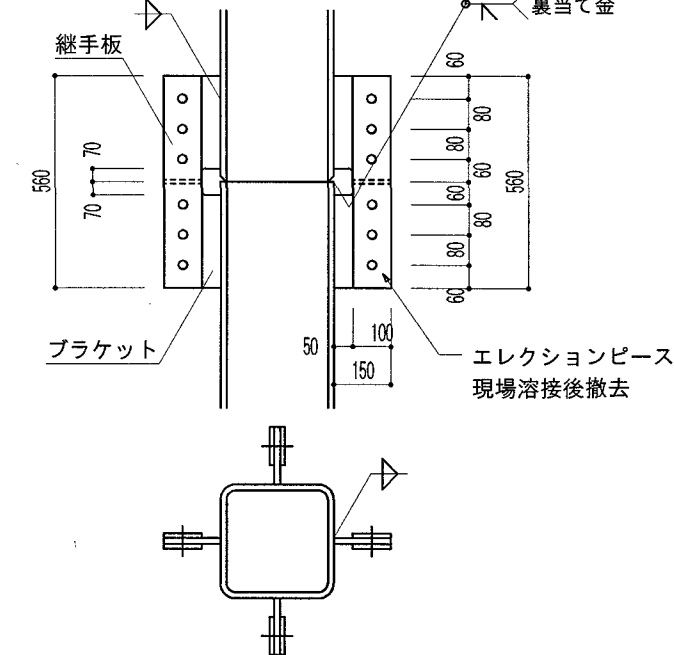


パネルゾーンビルドタイプ



○-○ 断面

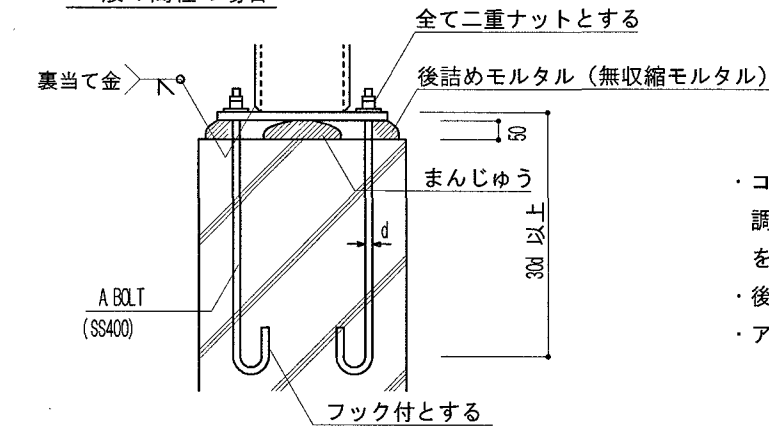
○ 柱継手（溶接タイプ）



ブラケット厚	9	12	16	19	22
継手板厚	6	9	12	16	16
高力ボルト	M16	M20	M20	M20	M20
許容耐力 (kN)	94	190	254	301	348
支持床数	3	6	9	12	14

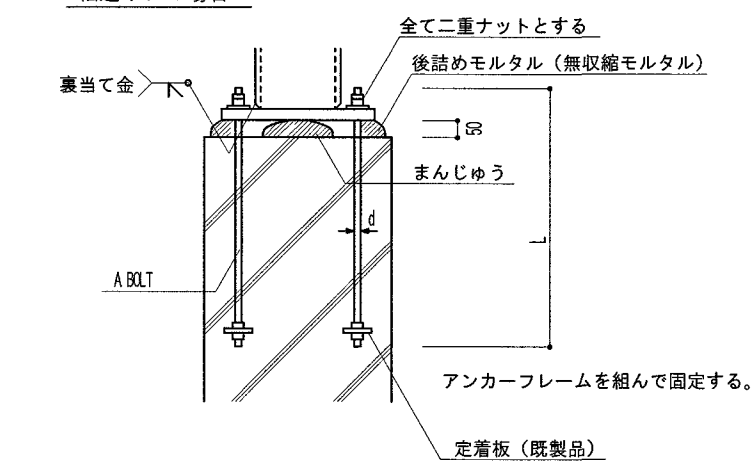
○ 柱脚

一般の間柱の場合

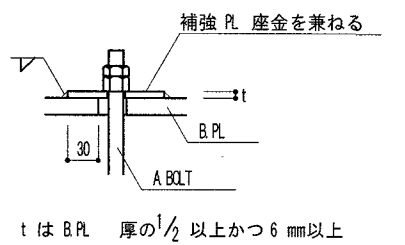


- ・コンクリート表面のレイタンス等を取り除いた後、割合（容積比）セメント1：砂1の堅練りモルタルを平に塗り仕上げる。
- ・後詰めモルタルは空隙の出来ないように充填する。
- ・アンカーフレームを使用する場合は設計図書による。

転造ネジの場合



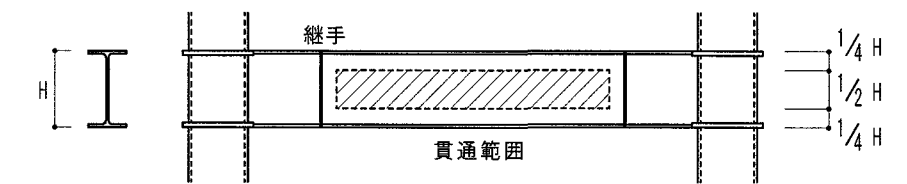
アンカーボルトの施工に誤差がある場合



t は B R 厚の 1/2 以上かつ 6 mm 以上

9 そ の 他

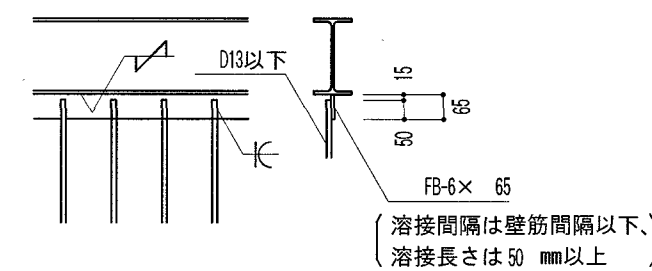
○ 梁貫通孔補強



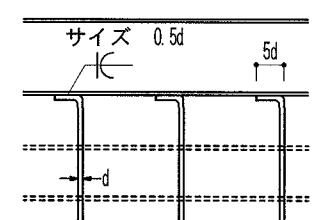
- ・梁貫通孔補強は、既製補強金物とする。
- ・特記無き限り補強方法は上図によるが、孔径（φ）は 0.9H 以下とし、そのピッチは 3.0 φ 以上とする。
- ・スリーブは梁成の中央 1/2 の範囲とする。

○ 壁配筋の溶接

軽微なRC壁の場合



コンクリートブロック壁の場合



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山田	松本

建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY

一級建築士 大臣登録第329877号 横昌康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

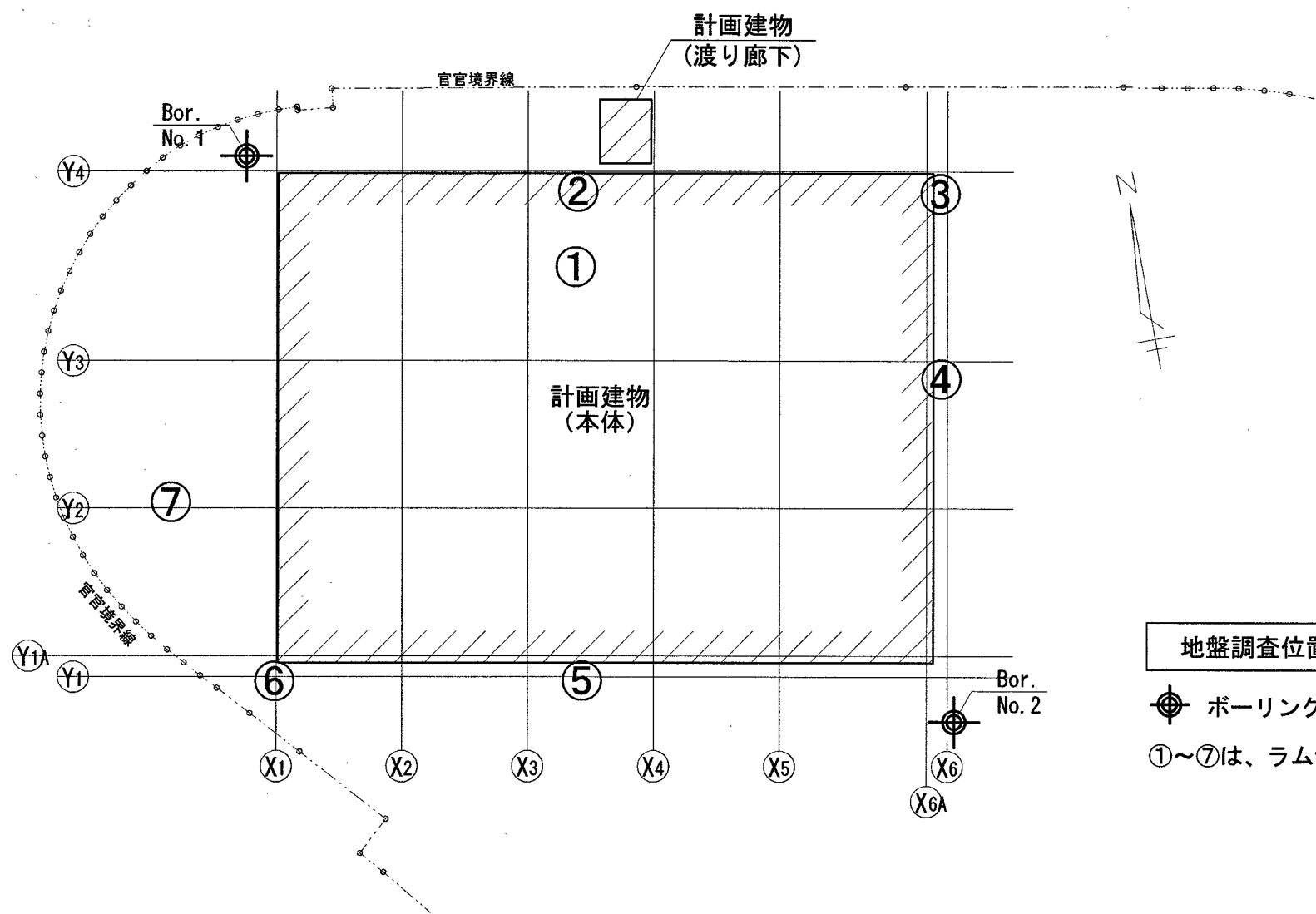
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

構造特記仕様(5)

SCALE 1/

(A3は70%出力)

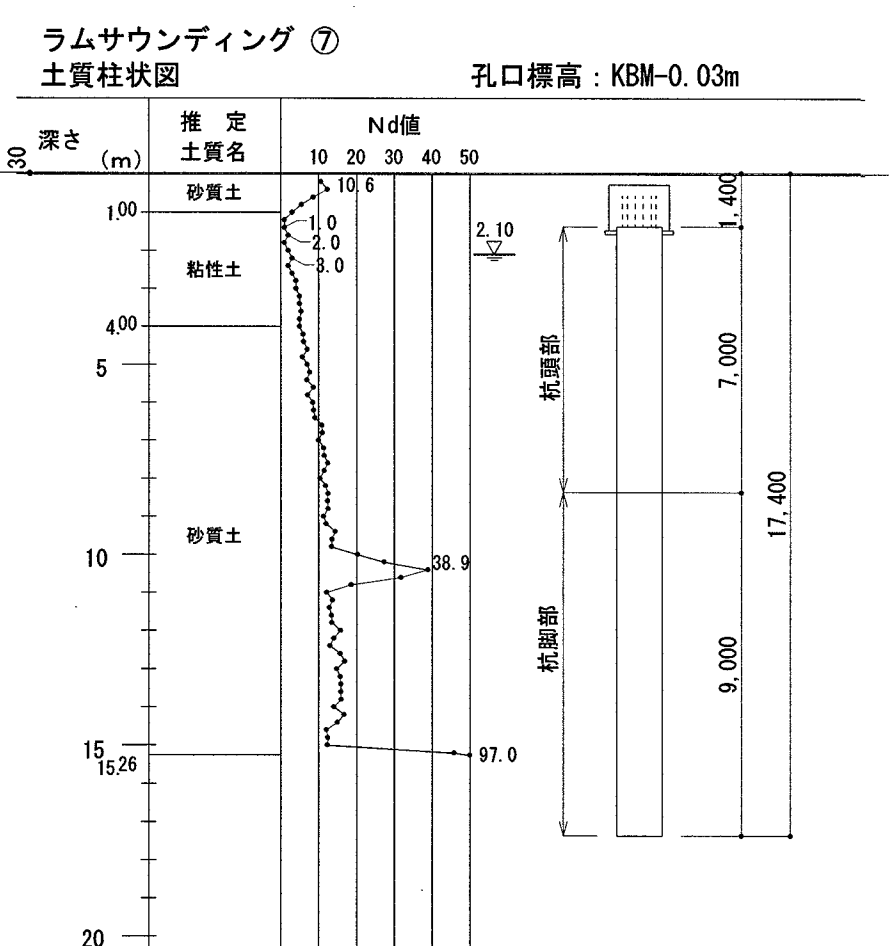
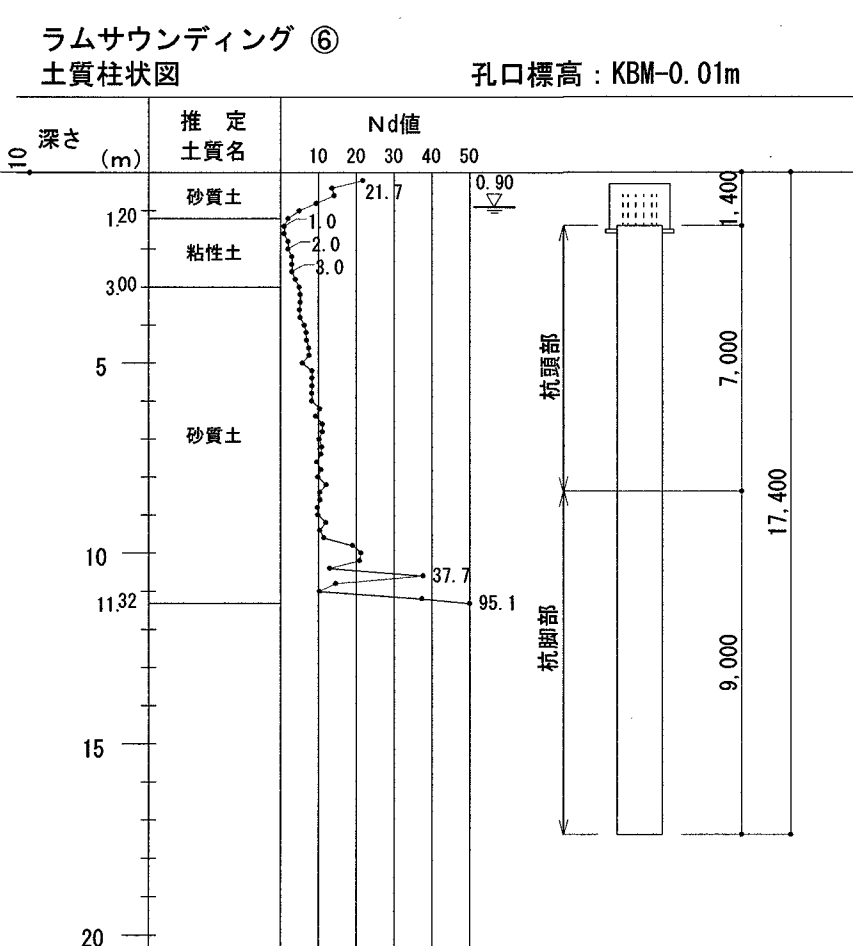
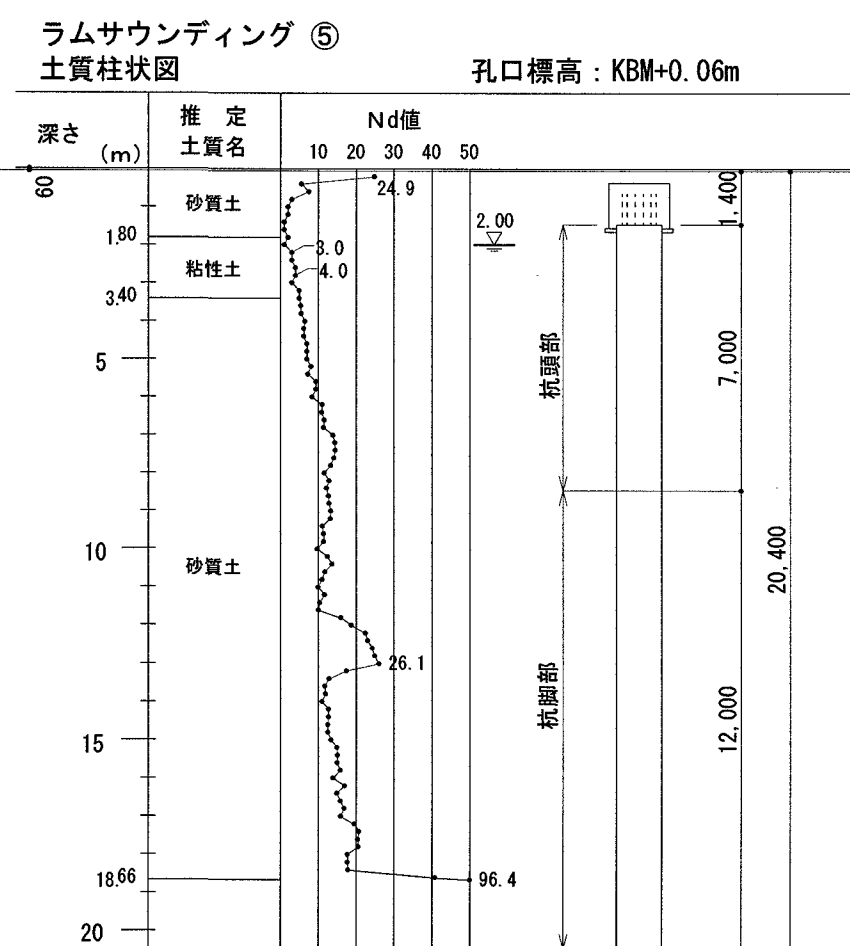
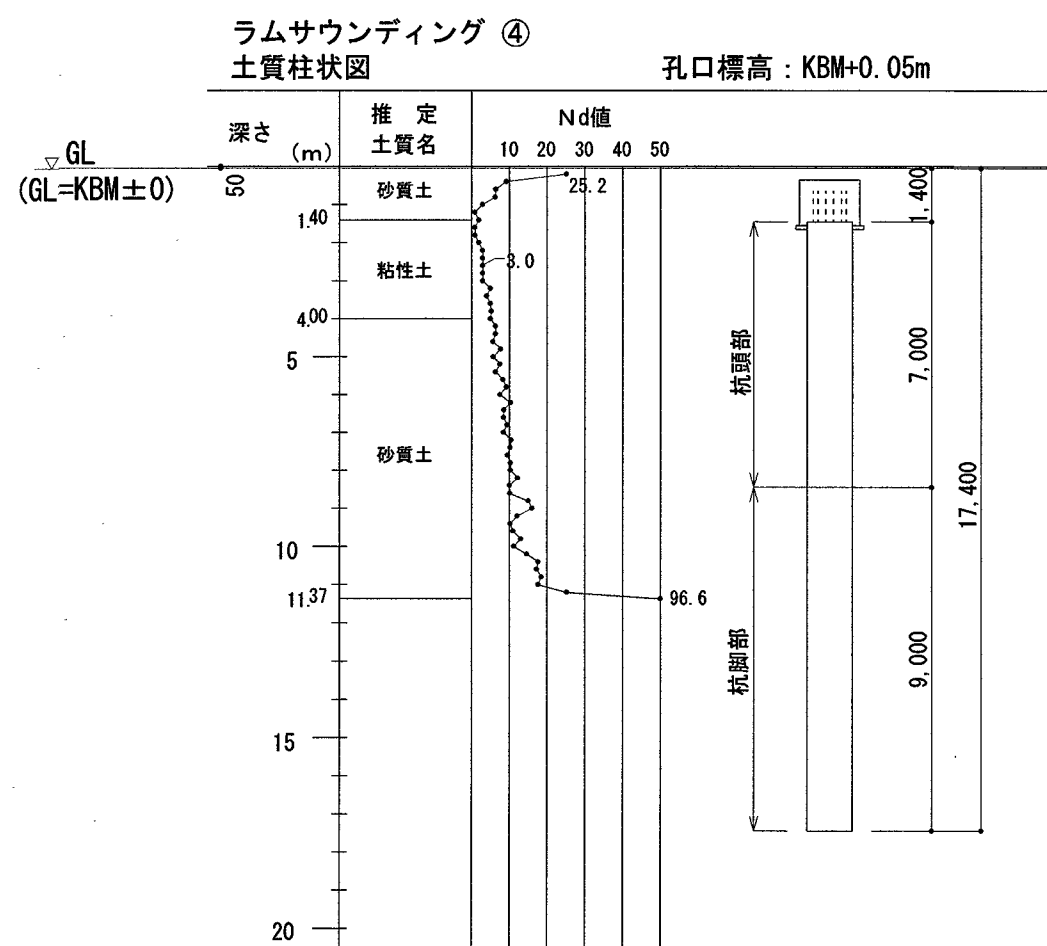
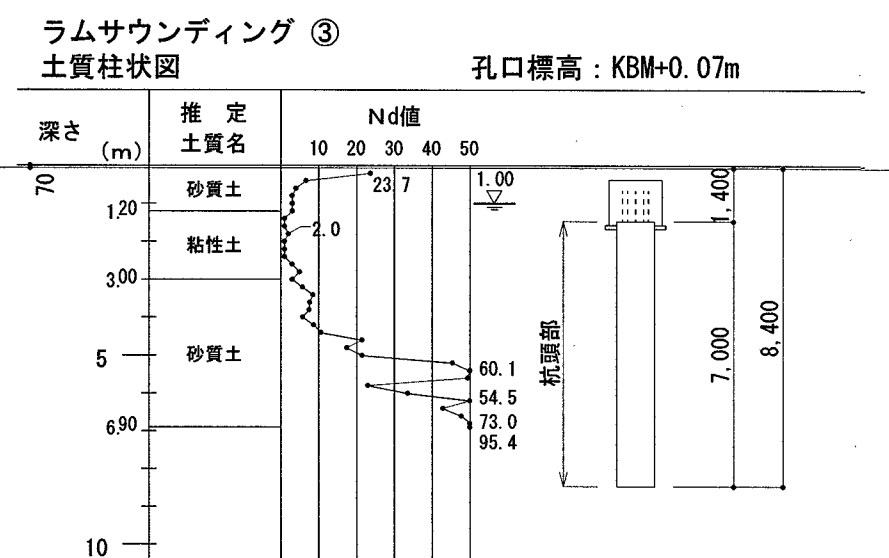
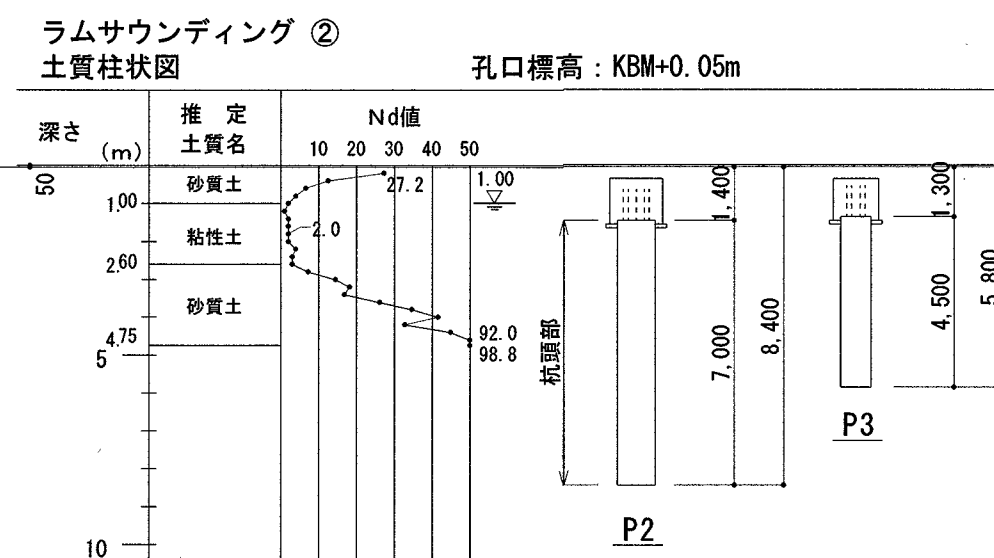
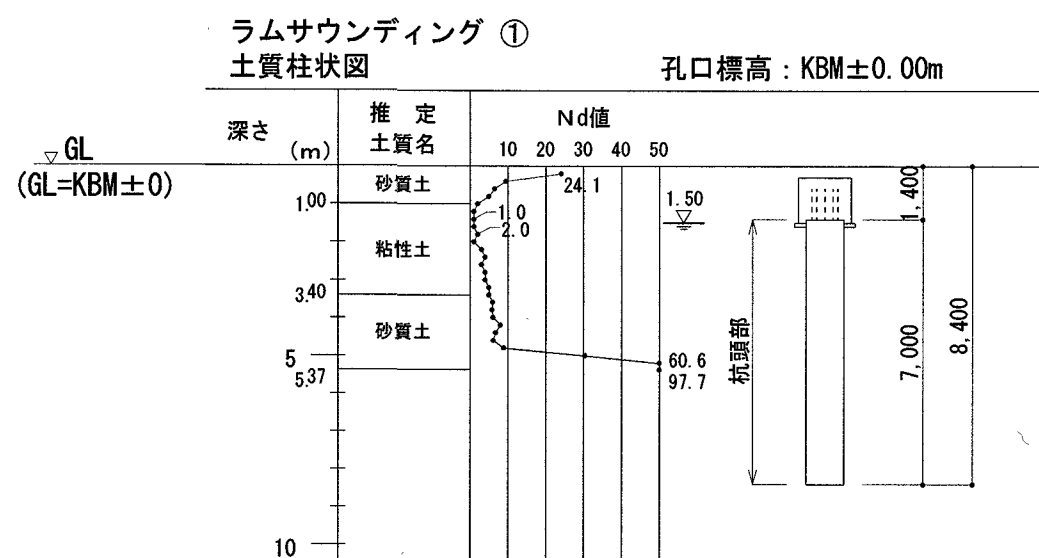
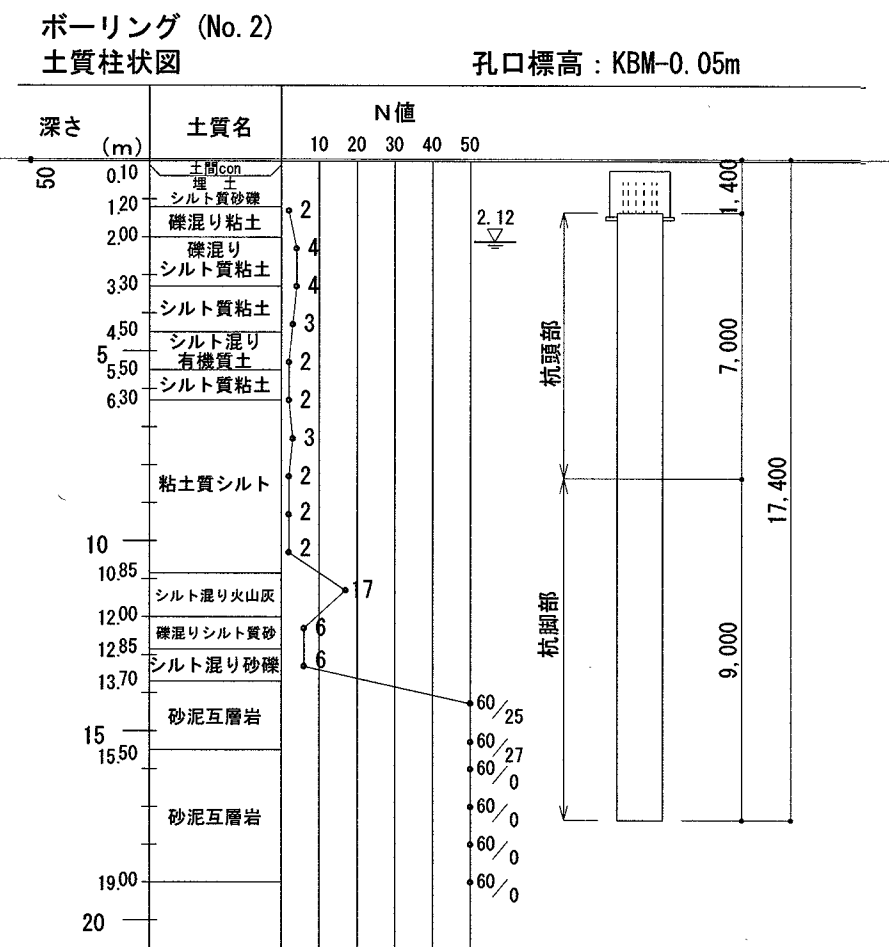
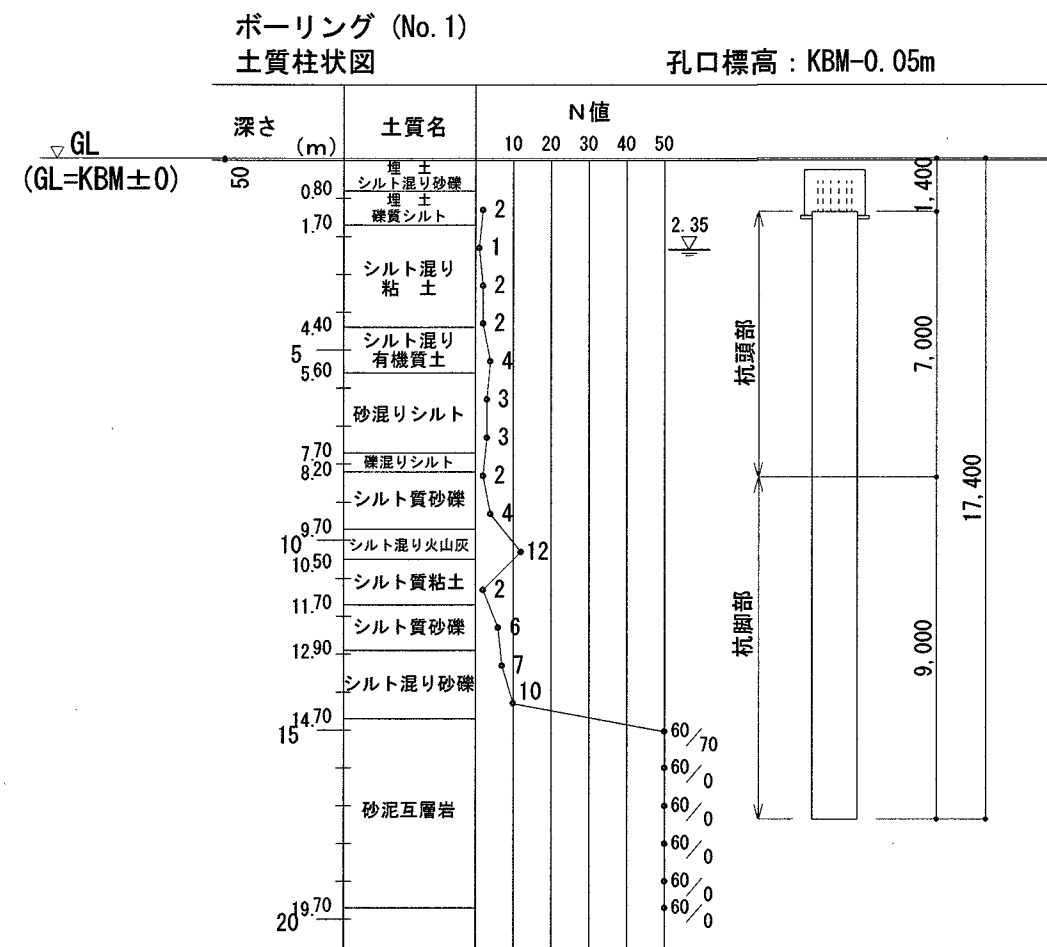
構造
05



地盤調査位置図 1:300

● ボーリング位置
①～⑦は、ラムサウンディング試験位置を示す。

土質柱状図 1:200



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
経	大	田	松

建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

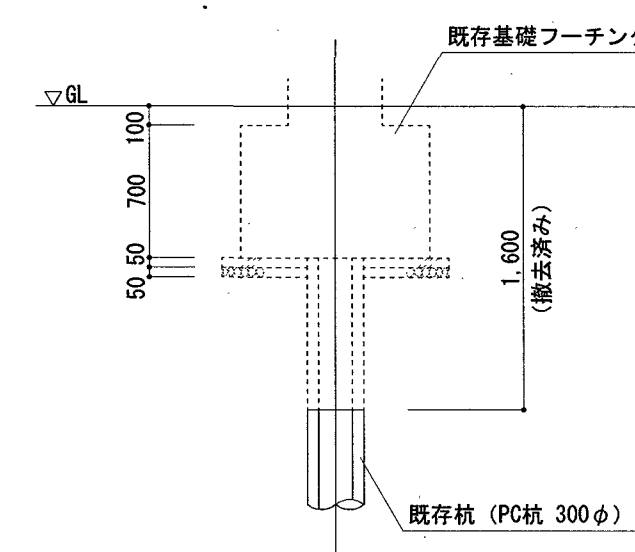
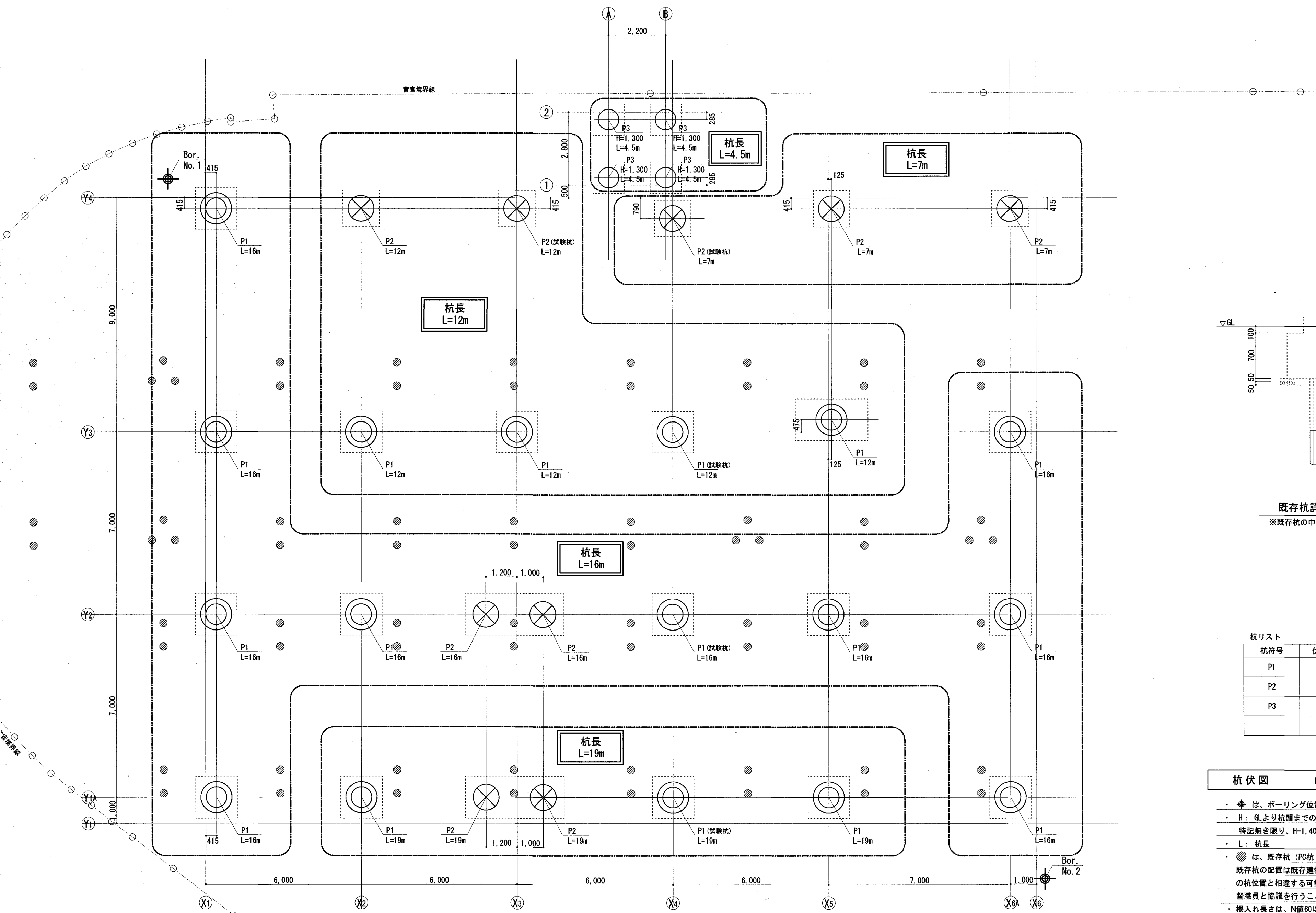
(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

土質柱状図

SCALE 1/200, 300
(A3は70%出力)

構造
06



既存杭詳細図 1:40

※既存杭の中空部の埋戻しは不要。

杭リスト

杭符号	伏図記号	杭径	本数
P1	⊙	1,200 φ	17本
P2	⊗	1,000 φ	9本
P3	○	800 φ	4本

杭伏図 1:100

- は、ボーリング位置を示す。
 - H: GLより杭頭までの深さ
特記無き限り、H=1,400とする。
 - L: 杭長
 - は、既存杭 (PC杭 300φ) を示す。
- 既存杭の配置は既存建物の設計図より転写したものであり、実際の杭位置と相違する可能性が有り。施工に支障がある場合は、監督職員と協議を行うこと。
- 根入れ長さは、N値60以上の支持層へ1m以上。



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山田	松本

卍建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY

一級建築士 大臣登録第329877号 横畠康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

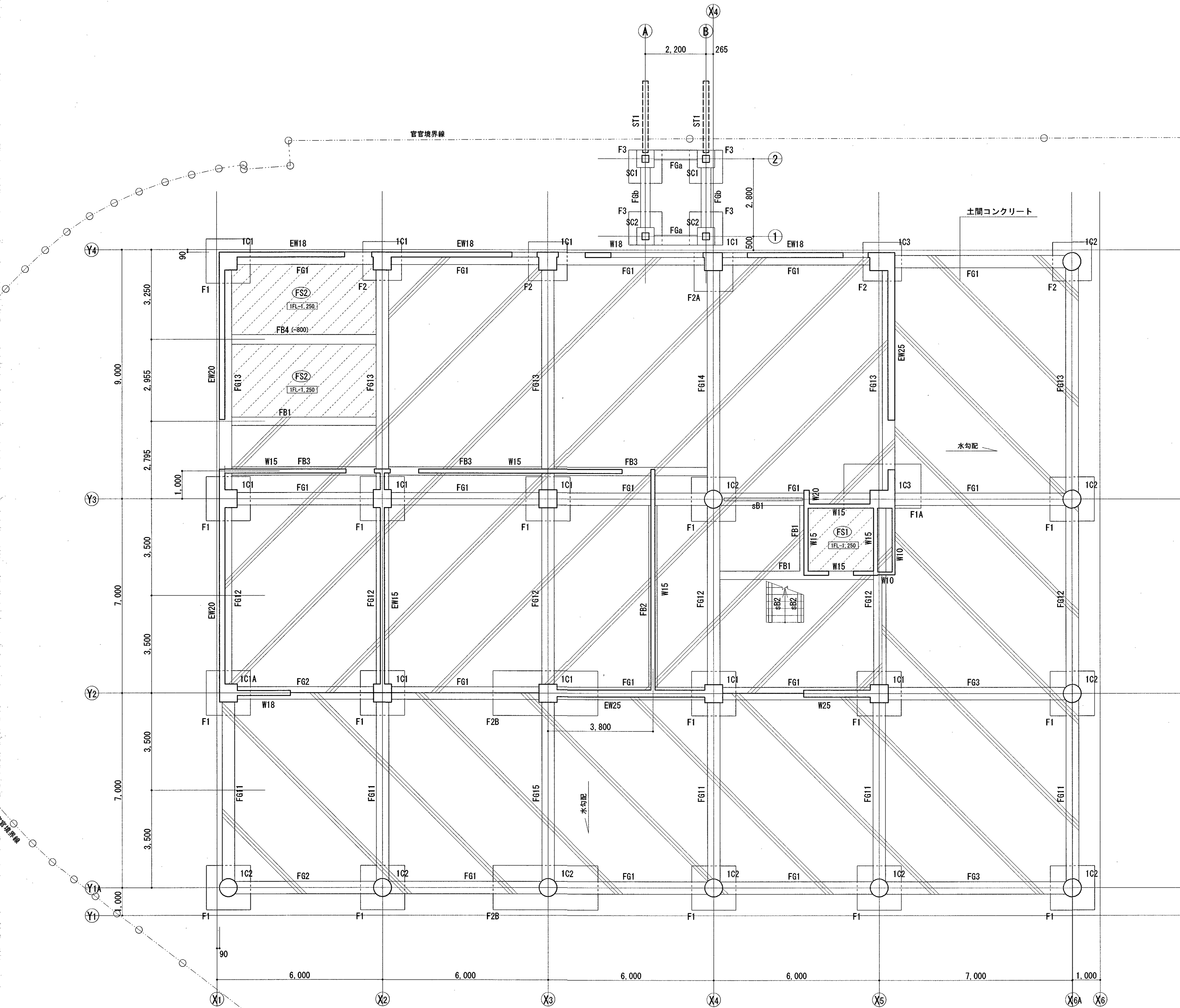
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

杭伏図

SCALE
1/100, 40

(A3は70%出力)

構造
07



鉄骨部材リスト

材名	使用鋼材
sB1	H - 200 × 100 × 5.5 × 8 (SS400)
sB2	H - 125 × 125 × 6.5 × 9 (SS400)

伏図一般事項

- 特記なき限り、以下の通りとする。
コンクリート壁 W15
- 印は、柱、梁の増打ちを示す。

基礎・1FL伏図 1:100

- 特記なき限り下記による。
- ・ 地中梁天端は、1FL -200 とする。
 - ・ () 内は、1FL からの梁天端レベルを示す。
 - ・ 内部土間天端は、1FL -10 とする。
 - ・ 印床版天端は、1FL -1,250 とする。
 - ・ 印は、内部土間コンクリートを示す。
 - ・ 印は、外部土間コンクリートを示す。



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
〇 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山崎	松本

岬建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横昌康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

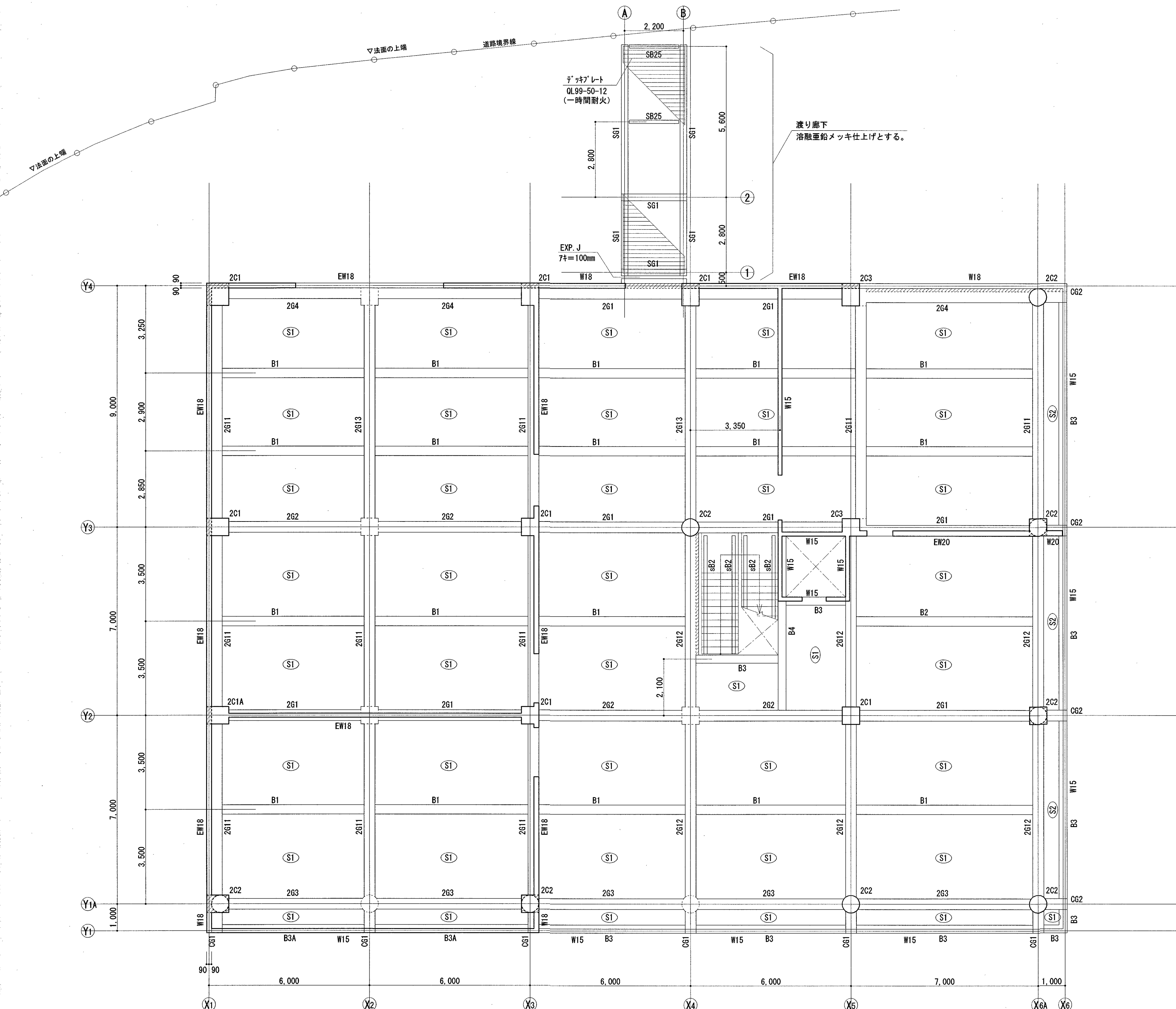
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

基礎・1FL伏図

SCALE
1/100

構造
08

(A3は70%出力)



渡り廊下 鉄骨部材リスト

材名	使用鋼材	
SC1	□ - 250 × 250 × 12 (BCR295)	λ max=51.4
SC2	□ - 250 × 250 × 9 (BCR295)	λ max=48.8
SG1	H - 340 × 250 × 9 × 14 (SN400B)	
SB25	H - 250 × 125 × 6 × 9 (SS400)	
ST1	H - 200 × 200 × 8 × 12 (SN400B)	λ max=119.8
デッキプレート	QL99-50-12 溶接金網 : 6 φ-100 × 100	
	耐火補強筋 : D13-@300	
	コンクリート Fc=21 N/mm ² 山上厚さ 80	

伏図一般事項

- 特記なき限り、以下の通りとする。
コンクリート壁 W15
- 印は、柱、梁の増打ちを示す。

2FL伏図 1:100

特記なき限り下記による。

- 床版下端は、2FL -800 とする。
- 梁下端は、2FL -800 とする。



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
〇 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山崎	松本

建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY

一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称)春野文化公民館建設工事

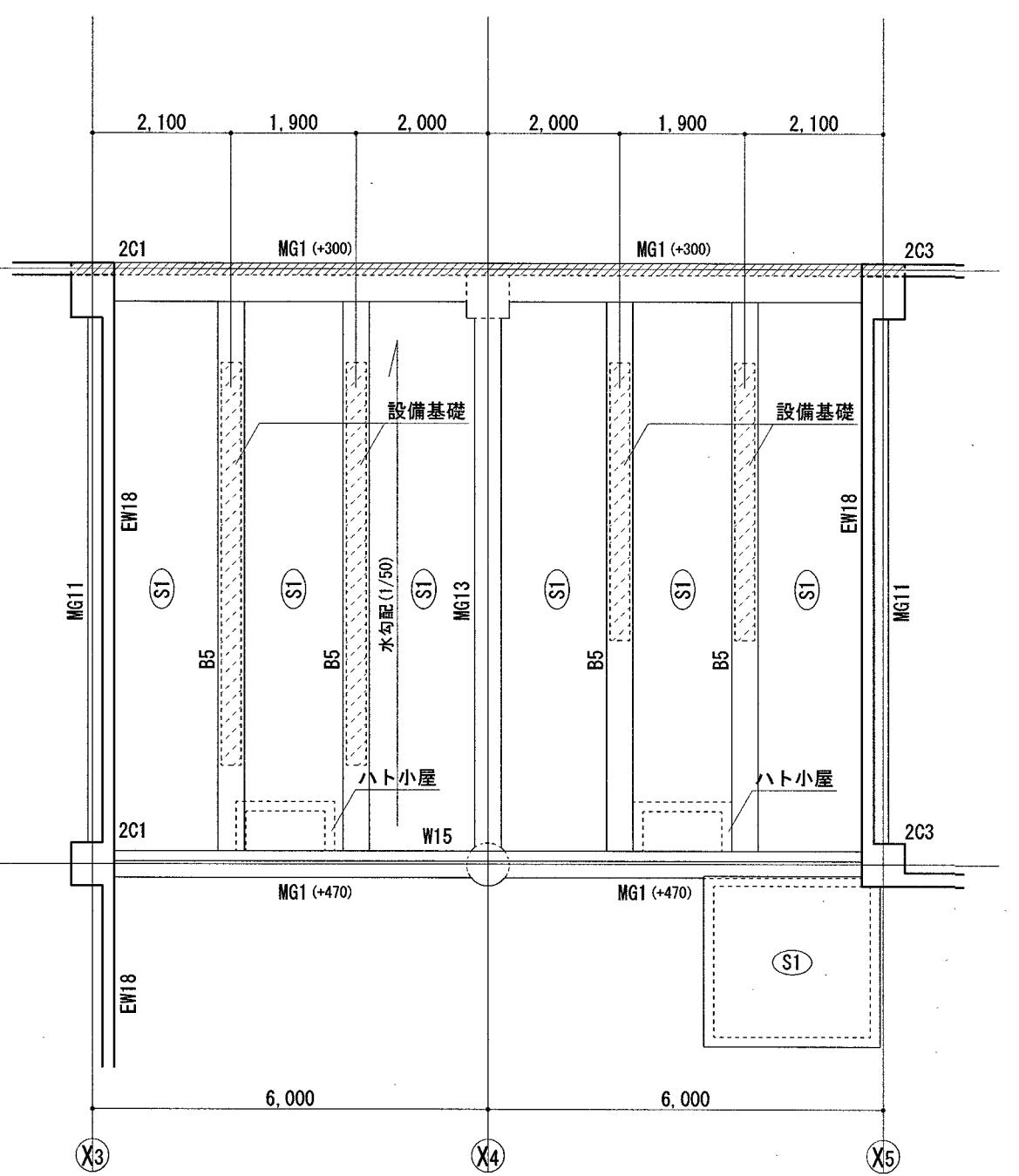
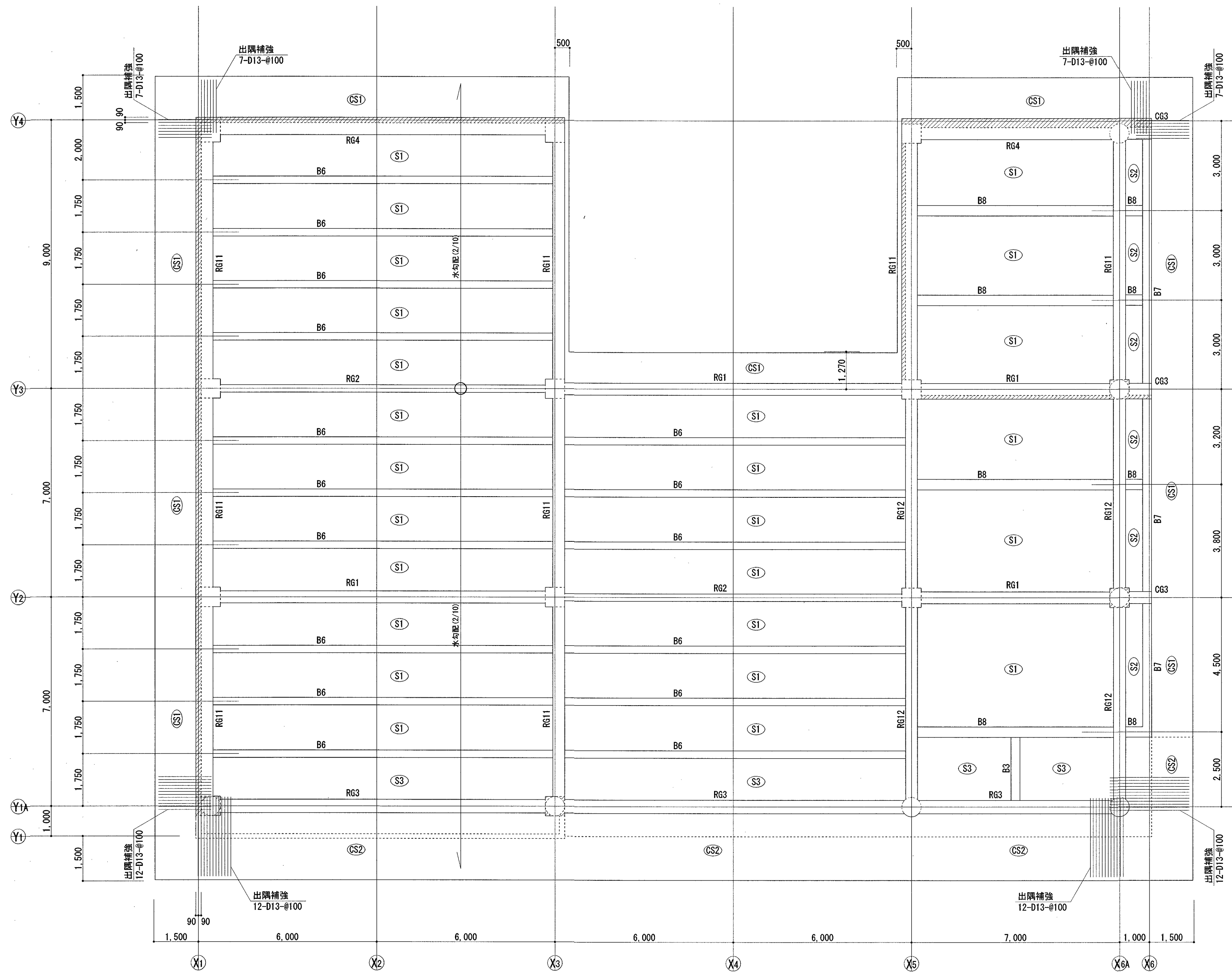
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

2FL伏図

SCALE
1/100

(A3は70%出力)

構造
09



RFL伏図 1:100

特記無き限り下記による。
・ () 内は、RFL からの梁天端レベルを示す。

伏図一般事項

1 特記なき限り、以下の通りとする。
コンクリート壁 W15

2 印は、柱、梁の増打ちを示す。

屋根伏図 1:100



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山崎	松本

岬建築工房
SHIMIZU ARCHITECTURAL FACTORY
1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216
一級建築士 大臣登録第329877号 横畠康

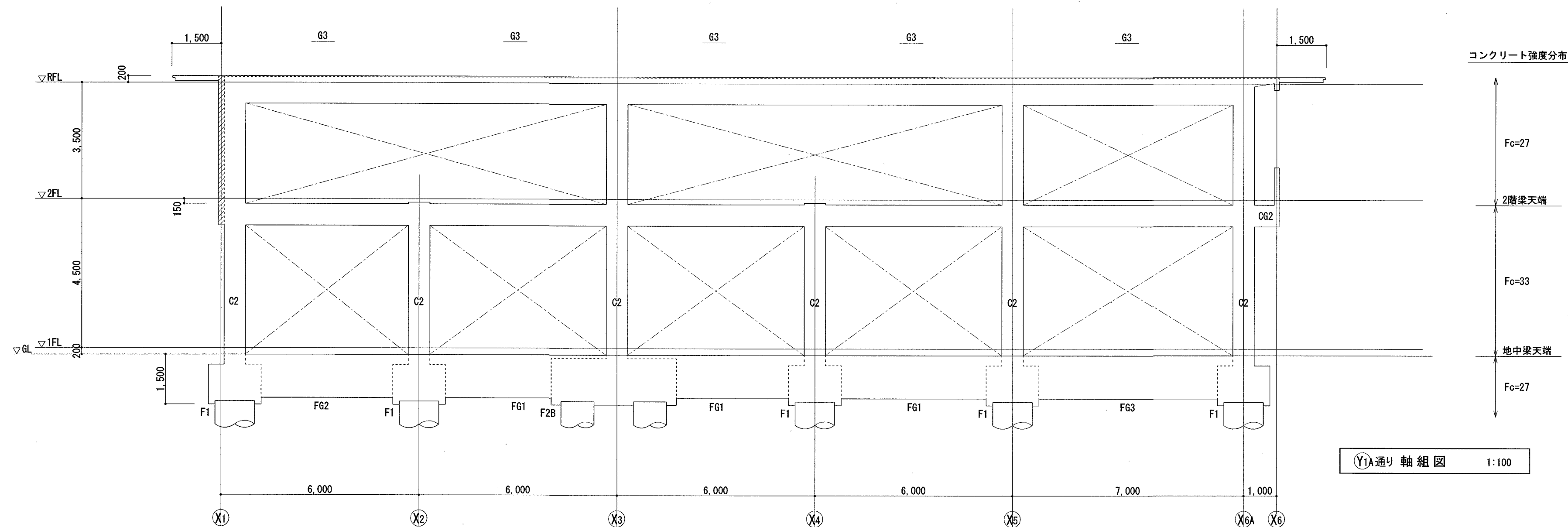
(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

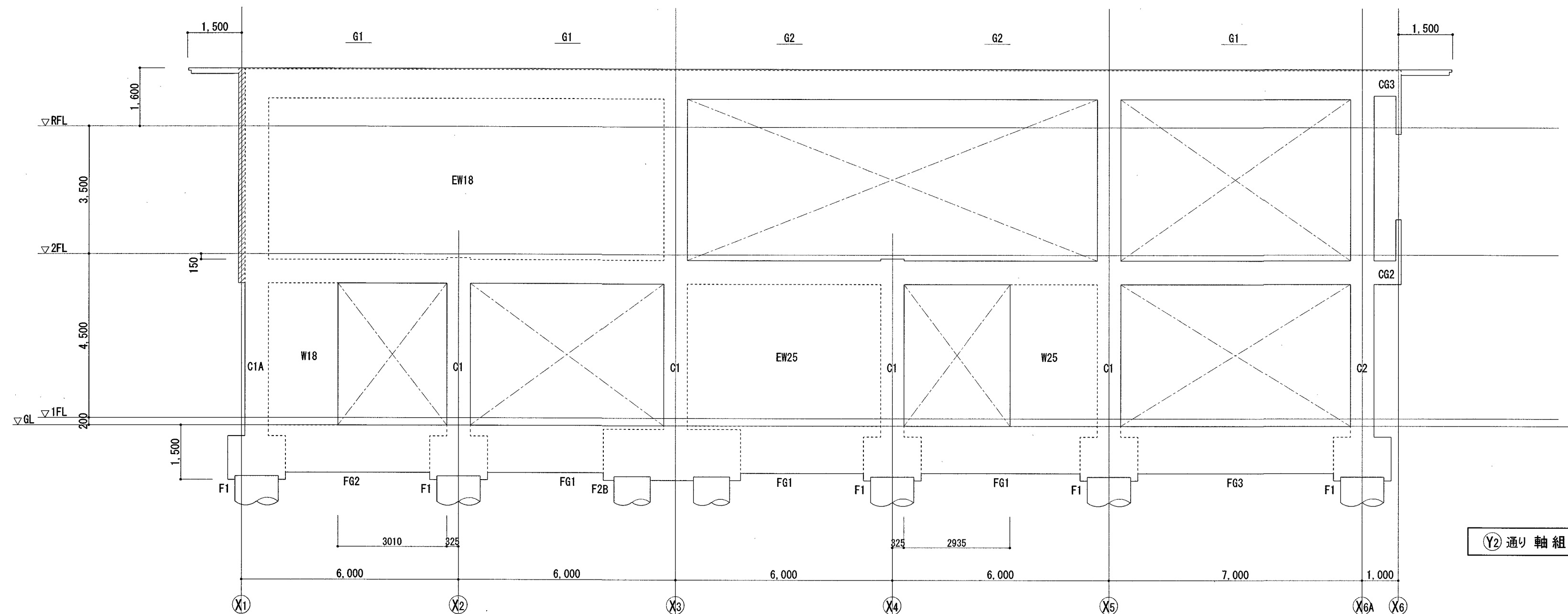
屋根伏図

SCALE
1/100
(A3は70%出力)

構造
10



Y1A 通り 軸組図 1:100



Y2 通り 軸組図 1:100

- 軸組図一般事項
- 柱符号は、各階共通で1階柱にて示す。
大梁符号は、2G~RGが共通で図の上に示す。
地中梁符号は、図の下に示す。
 - 特記なき限り、以下の通りとする。
コンクリート壁 W15
 - 印は、柱、梁の増打ちを示す。



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
〇 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長

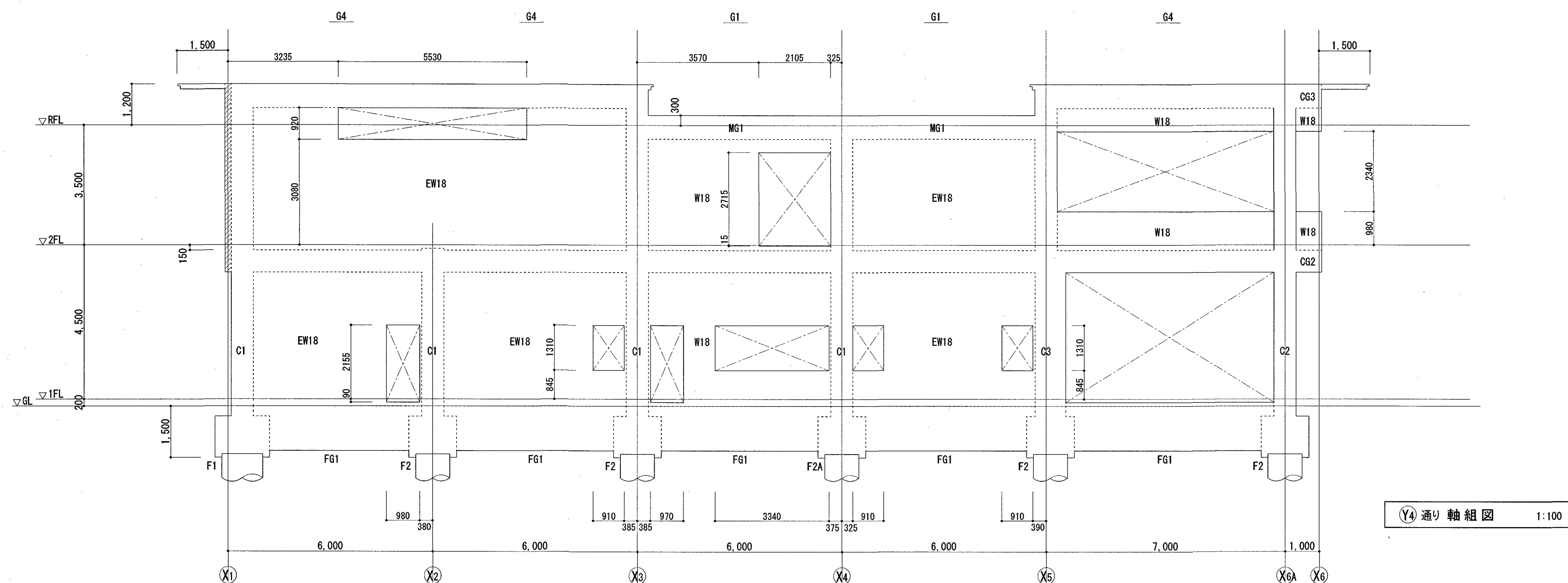
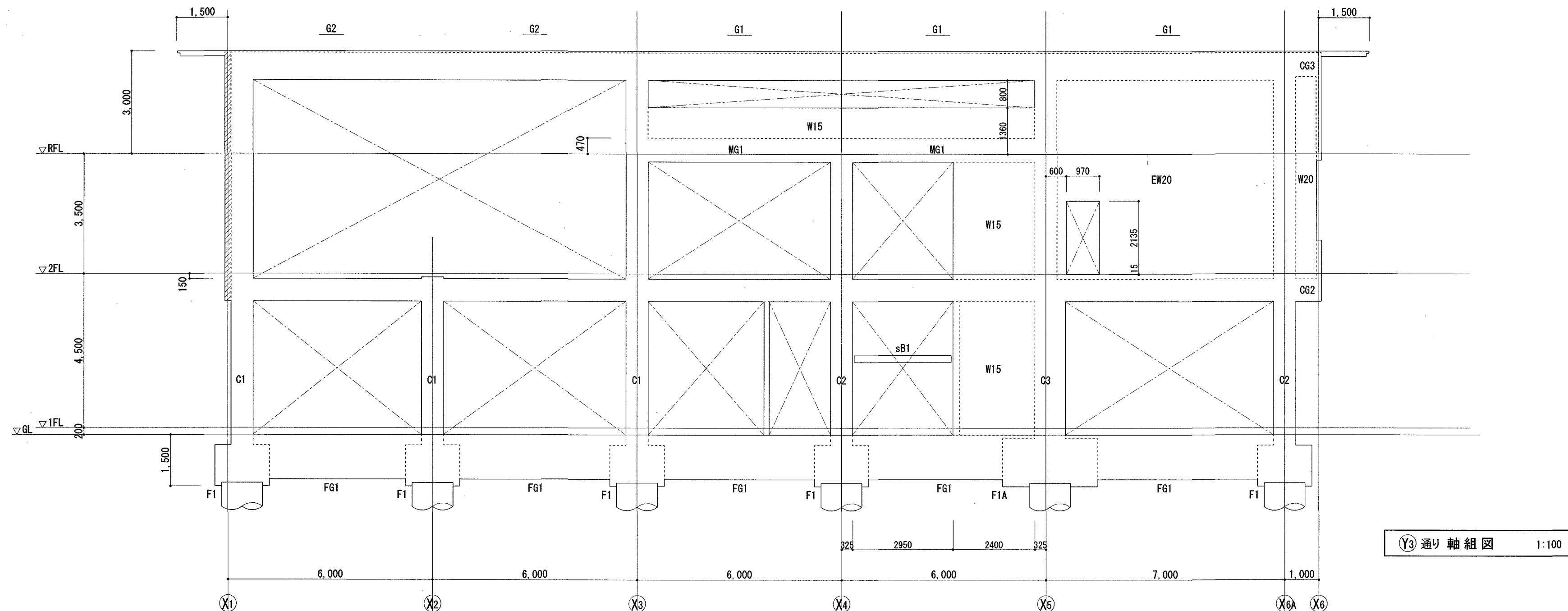
艸 建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

軸組図 (1)

SCALE 1/100
(A3は70%出力)



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
 構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
 ○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山崎	松本

叫建築工房
 SOU ARCHITECTURAL FACTORY
 一級建築士 大臣登録第329877号 横昌康

1-1-15 SHINYASIKI
 KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
 PHONE 088-824-0177
 FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

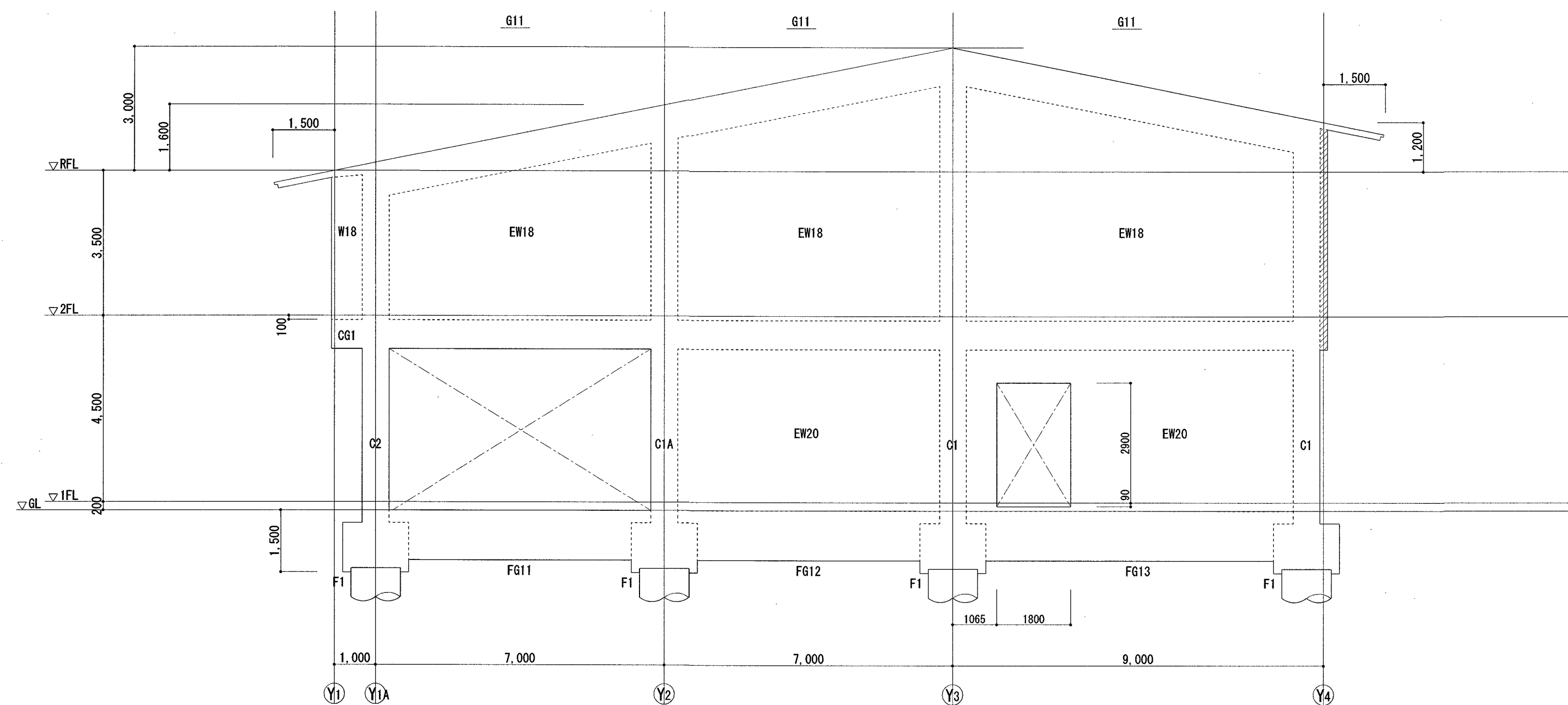
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

軸組図 (2)

SCALE
 1/100

(A3は70%出力)

構造
 12



コンクリート強度分布

Fc=27

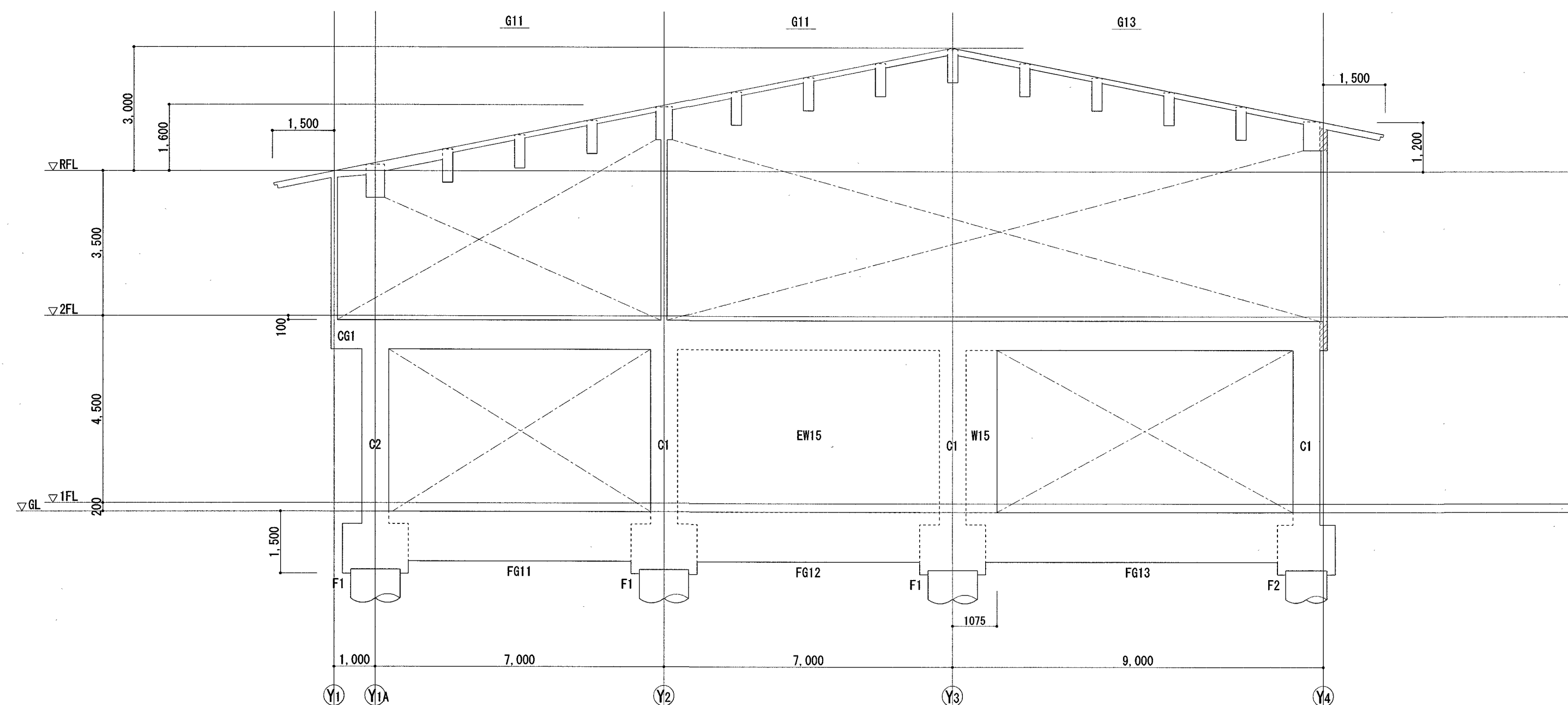
2階梁天端

Fc=33

地中梁天端

Fc=27

(X1) 通り 軸組図 1:100



(X2) 通り 軸組図 1:100



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	田中	松本

艸建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横畠康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 089-824-0177
FAX 089-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

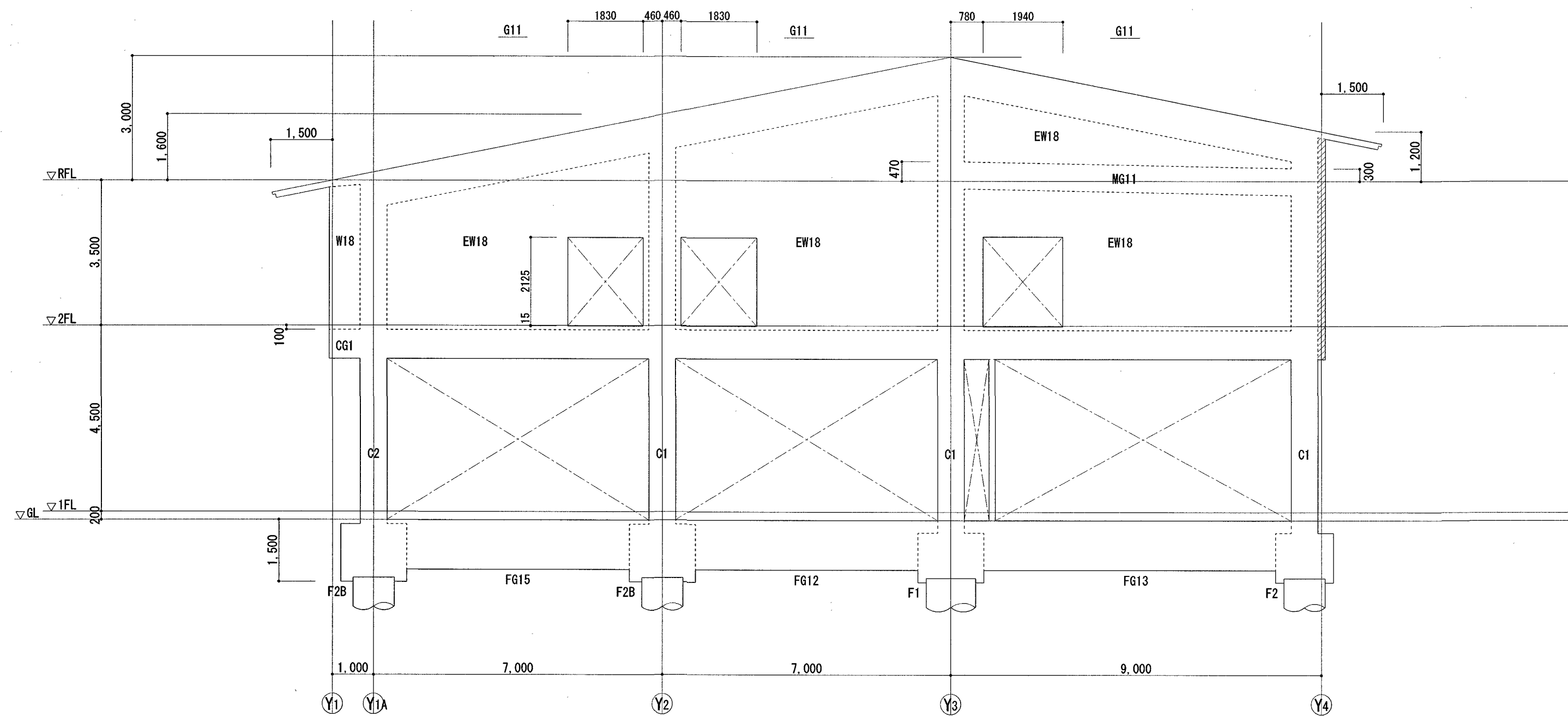
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

軸組図 (3)

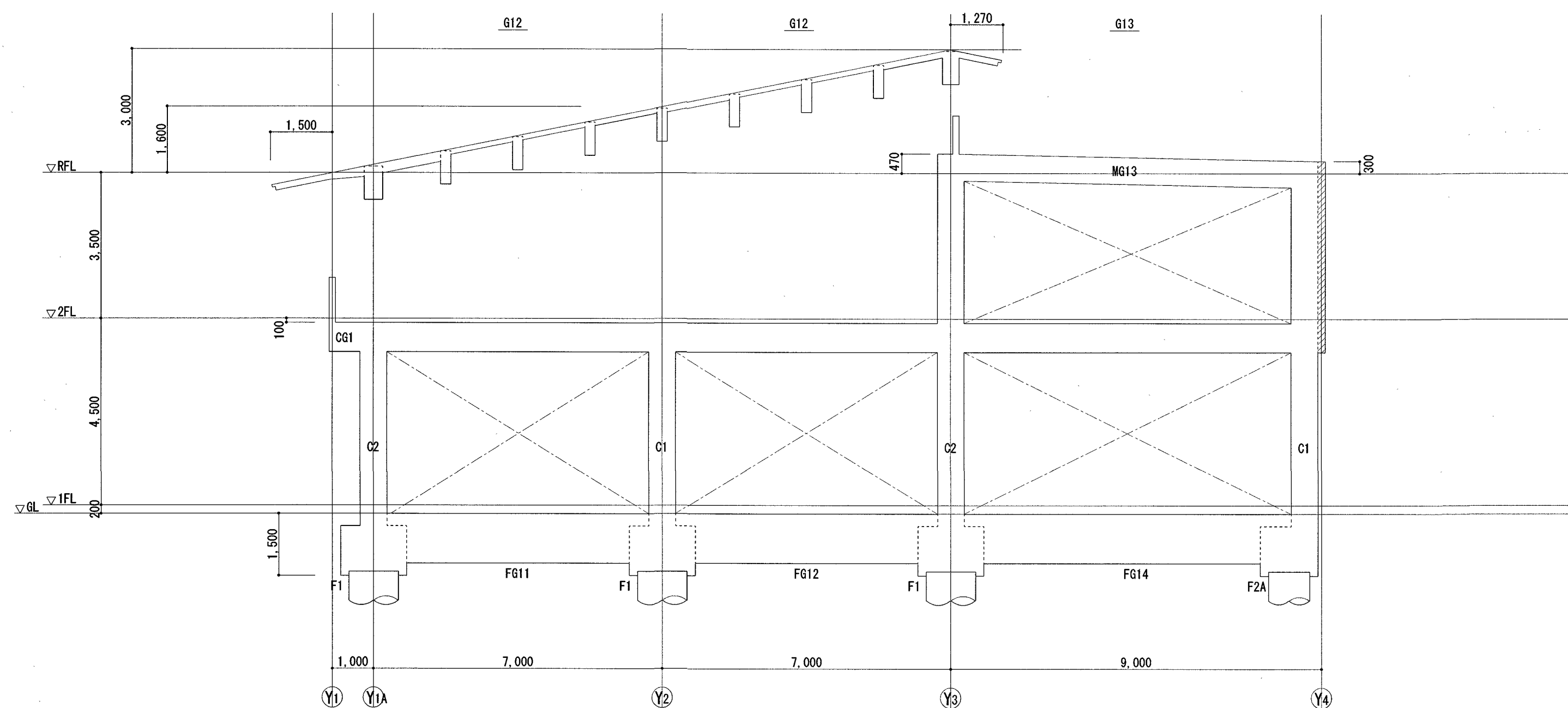
SCALE
1/100

(A3は70%出力)

構造
13



③ 通り 軸組図 1:100



④ 通り 軸組図 1:100



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
〇 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長
江口	大下	山崎	松本

岬建築工房
SOU ARCHITECTURAL FACTORY

1-1-15 SHINYASIKI
KOHJI CITY 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

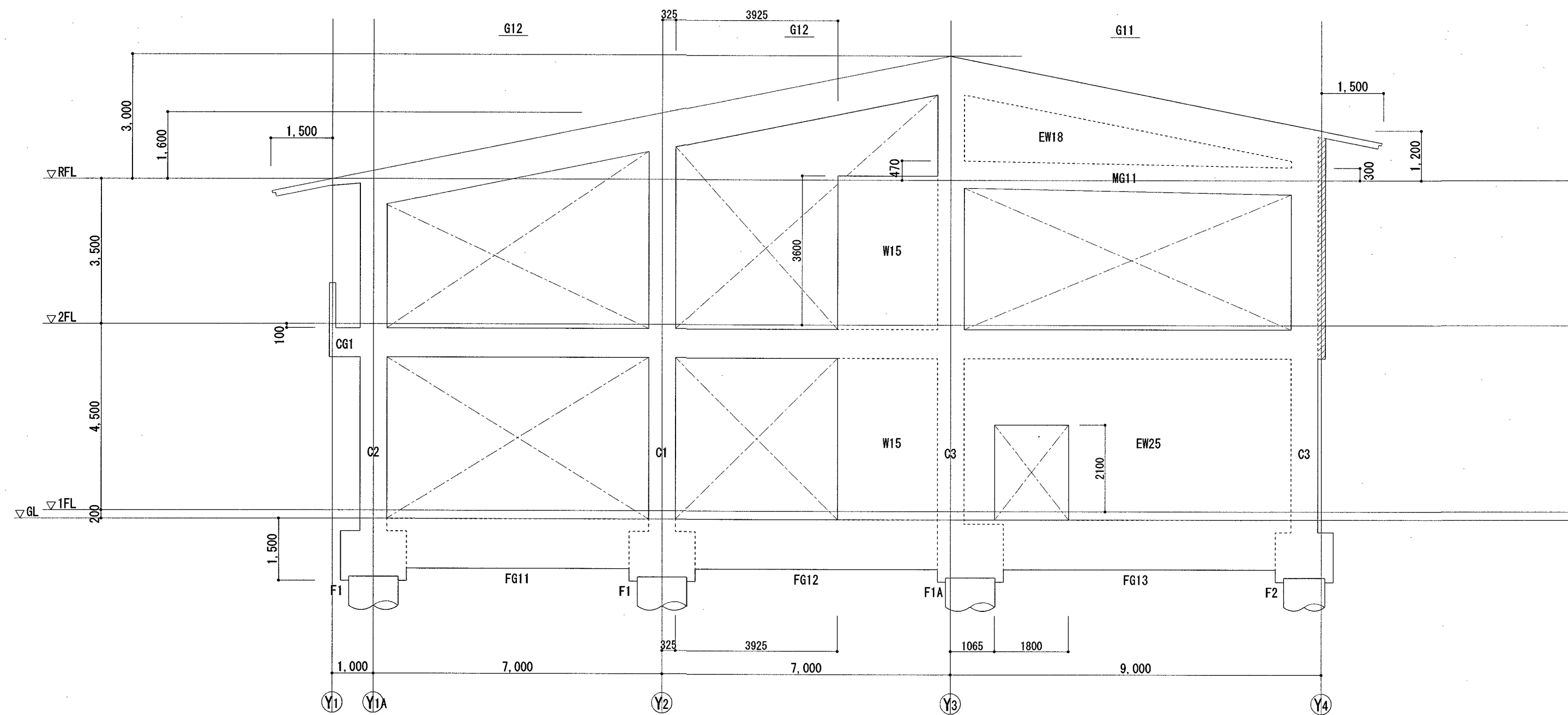
PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

軸組図 (4)

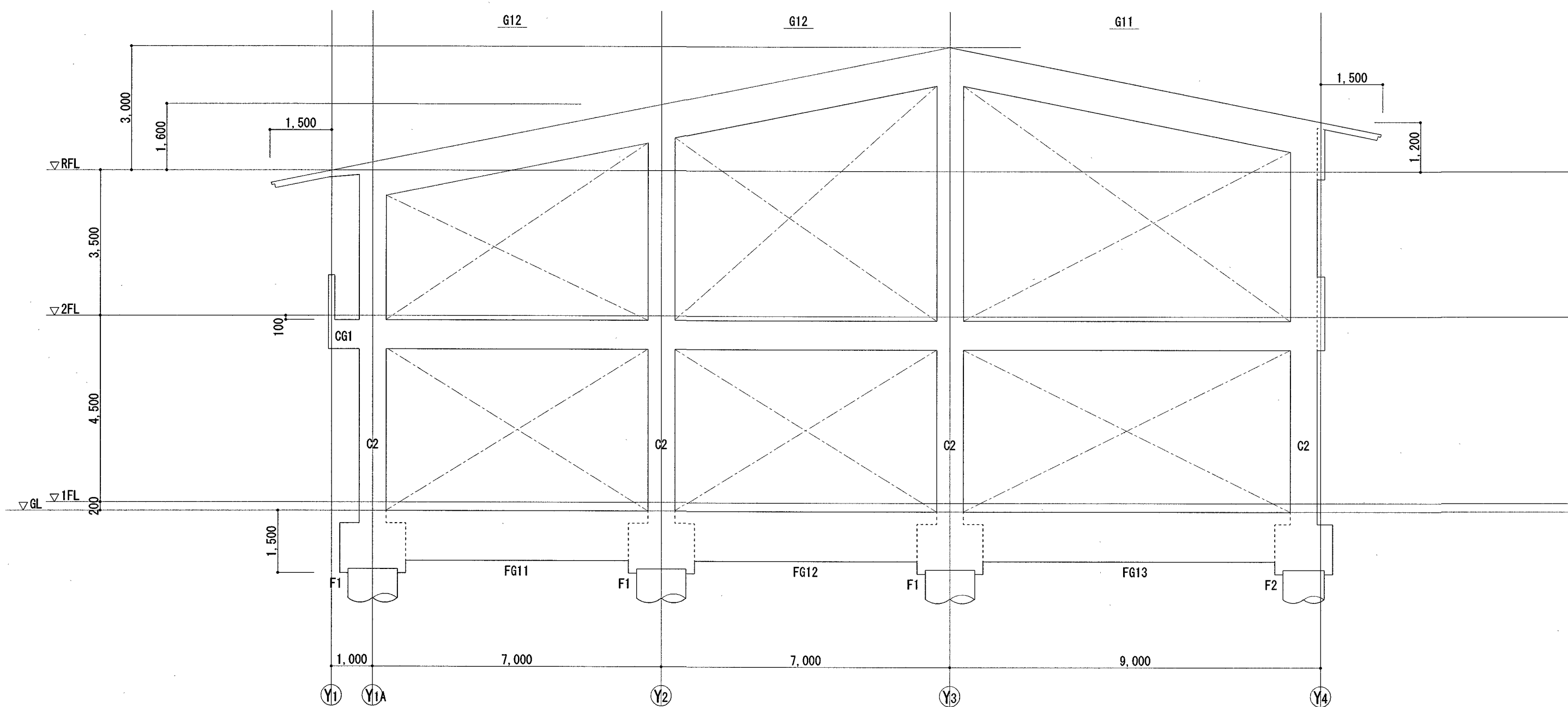
SCALE
1/100

(A3は70%出力)

構造
14



(X5) 通り 軸組図 1:100



(X6A) 通り 軸組図 1:100



一級建築士 大臣登録 第 354762 号
構造設計一級建築士 交付番号 10211 号
○ 佐々木 尊一

係	係長	課長補佐	課長

岬建築工房
SHIMIZU ARCHITECTURAL FACTORY
一級建築士 大臣登録第329877号 横島康

1-1-15 SHINYASIKI
KOCHI CITY, 780-0911 JAPAN
PHONE 088-824-0177
FAX 088-824-0216

(仮称) 春野文化公民館建設工事

PLANNING NO. DATE DRAWING BY CHECKED BY

軸組図 (5)

SCALE
1/100

(A3は70%出力)

構造
15